

平成30年度 登別市デンマーク友好都市 中学生派遣交流事業 研修報告書



目次

○登別市デンマーク友好都市中学生派遣交流事業の概要・・・・・・・・・・	1
・事業概要	
・研修日程表	
・派遣生徒・引率者・ホストファミリー名簿	
・派遣日程表	
・各学校独自の取組について	
○研修テーマ・・・・・・・・・・	7
日本とデンマークの交通機関の違い	
登別市立幌別中学校	1年 村元 優希
デンマークの公共施設について	
登別市立鷺別中学校	2年 本田 優美香
デンマークの音楽について	
登別市立西陵中学校	2年 石山 明寿香
デンマークのスポーツについて	
登別市立緑陽中学校	1年 山根 大翔
デンマークの建物について	
登別市立緑陽中学校	3年 鈴木 春花
デンマークの子供の遊び	
北海道登別明日中等教育学校	1回生 和田 笙
○感想文・・・・・・・・・・	18
村元 優希 : 海外への僕の第一歩	
本田 優美香 : 初めての海外	
石山 明寿香 : 英語の大切さ	
山根 大翔 : 忘れられない最高の旅行	
鈴木 春花 : デンマークでの思い出	
和田 笙 : 思い出に残る旅行	
○引率者報告書・・・・・・・・・・	28
団長：大澤 玲裕 登別市観光経済部商工労政グループ総括主幹	
引率者：斎藤 智弥 登別市立西陵中学校教諭	
○帰国報告会資料[派遣生徒]・・・・・・・・・・	45
○帰国報告会資料[引率者]・・・・・・・・・・	110

事業概要

○ 事業概要

1 目的

登別市の中学生を友好都市のデンマーク王国ファボー・ミッドフュン市に派遣し、青少年との交流や日本とは異なる生活・文化の体験を通じ、生徒の豊かな人間性と広い視野を育むとともに、ファボー・ミッドフュン市との交流を推進することを目的とする。

2 訪問国及び都市

デンマーク王国：コペンハーゲン市、オーデンセ市、
ファボー・ミッドフュン市

3 派遣期間

平成30年8月9日（木）～ 18日（土）：9泊10日

4 交流内容

表敬訪問：ファボー・ミッドフュン市役所

学校訪問：リングフリー校、ノーアエア校

施設見学：ラウンドタワー、デザインミュージアム

アンデルセン博物館、レゴランド、イーエスコー城、
森の幼稚園、図書館、オリンピックスポーツ施設

5 研修内容

(1)結 団 式：平成30年7月9日（月）

(2)事前研修：平成30年7月10日（火）～8月7日（火）計10回
デンマークの概要の学習、研修テーマの決定、英会話、
デンマーク語、登別の紹介・歌・踊りの練習など

〔OB懇談会（第9回事前研修）講師〕

派遣OB：小野島 晶〔H29年度：団長〕

桐 敦子〔H29年度：引率英語教諭〕

宮下 夏乙〔H29年度：登別市立鷺別中学校〕

辻 桃菜〔H29年度：登別市立登別中学校〕

對馬 凜胡〔H29年度：登別市立緑陽中学校〕

森元 紫乃〔H29年度：登別明日中等教育学校〕

(3)事後研修：平成30年8月31日（金）～ 10月4日（木）計6回
研修成果まとめ、感想文提出、帰国報告会準備

(4)帰国報告会：平成30年10月5日（金）

○ 研修日程表

月 日	内 容		会 場	時 間
07月09日(月)	結団式・第1回保護者説明会		市民会館/小会議室	18:00~19:30
07月10日(火)	事前研修①	デンマークの概要説明、昨年の様子紹介、リーダーの決定、アトラクション担当パート決定、研修テーマ検討、特技披露検討	市民会館/視聴覚室	16:30~18:00
07月13日(金)	事前研修②	研修テーマ決定、英語・デンマーク語レッスン、アトラクション練習	市民会館/視聴覚室	16:30~18:00
07月17日(火)	事前研修③	手紙の書き方 英語・デンマーク語レッスン、アトラクション練習	市民会館/視聴覚室	16:30~18:00
07月20日(金)	事前研修④	英語・デンマーク語レッスン、アトラクション練習	市民会館/視聴覚室	16:30~18:00
07月24日(火)	事前研修⑤	英語・デンマーク語レッスン、アトラクション練習	市民会館/視聴覚室	16:30~18:00
07月27日(金)	事前研修⑥	英語・アトラクション練習	市民会館/視聴覚室	09:30~12:00
07月31日(火)	事前研修⑦	英語・アトラクション練習	市民会館/視聴覚室	09:30~12:00
08月03日(金)	事前研修⑧	英語・アトラクション練習	市民会館/視聴覚室	09:30~12:00
08月04日(土)	事前研修⑨	OB懇談会	市民会館/視聴覚室	09:30~12:00
08月06日(月)	第2回保護者説明会(保護者)		市役所/第二委員会室	18:00~19:00
08月07日(火)	事前研修⑩	総練習、最終打合せ	市民会館/視聴覚室	09:30~12:00
08月08日(水)	市長へ出発挨拶(派遣者)		市役所/市長応接室	10:00~10:30
08月09日(木)	デンマークへ出発		市役所/裏駐車場	13:40~
08月18日(土)	デンマークから帰国		市役所/裏駐車場	16:10頃
08月22日(水)	市長へ帰国挨拶(派遣者)		市役所/市長応接室	16:30~17:00
08月31日(金)	事後研修①	報告書作成	市民会館/視聴覚室	16:30~18:00
09月05日(水)	事後研修②	報告書作成	市民会館/視聴覚室	16:30~18:00
09月14日(金)	事後研修③	報告書作成	市民会館/視聴覚室	16:30~18:00
09月19日(水)	事後研修④	帰国報告会準備	市民会館/視聴覚室	16:30~18:00
09月20日(木)	事後研修⑤	帰国報告会準備	市民会館/視聴覚室	16:30~18:00
10月04日(木)	事後研修⑥	帰国報告会リハーサル	市民会館/大会議室	16:30~18:00
10月05日(金)	帰国報告会		市民会館/大会議室	18:00~19:30

○ 派遣生徒・引率者名簿

学 校 名	学 年	生 徒 名
登別市立幌別中学校	1年生	村元 優希
登別市立鷺別中学校	2年生	本田 優美香
登別市立西陵中学校	2年生	石山 明寿香
登別市立緑陽中学校	1年生	山根 大翔
登別市立緑陽中学校	3年生	鈴木 春花
北海道登別明日中等教育学校	1回生	和 田 笙

引率者	団 長	登別市観光経済部 商工労政グループ 総括主幹	大澤 玲裕
	引率教諭	登別市立西陵中学校	斎藤 智弥

○ ホストファミリー名簿

派遣者名	ホスト名	性別	家族構成
村元 優希	Gustav Husmann Christensen グスタフ・フスマン・クリステンセン	男	父 ミカエル 母 リーセ 姉 エミリー
本田 優美香	Liva Elbæk Gershøj Petersen リーバ・エルバク・ゲアスホイ・ペダセン	女	父 ヤコブ 母 シャーロツテ 姉 フリーダ
石山 明寿香	Lizette ulsøe dyrn リゼッテ・ウルセ・デュアン	女	父 ゲルト 母 リスベス 兄 シモン 姉 ナジャ
	Mathilde Dalgaard Jespersen マティルデ・ダルゴー・イエスパーセン	女	父 マーティン 母 マリールイゼ 妹 カロリーネ 妹 イザベル 弟 セバスティアン
山根 大翔	Magnus Kokkendorff Ravnbo マウヌス・コッケンドルフ・ラウンボー	男	父 モートン 母 ティネ 妹 サラ 妹 アナ
	Mathias Berghold Buhl マシアス・ベルホルト・ブール	男	父 クリスティアン 母 ペルニレ 妹 ヨハネ 弟 ウィリアム
鈴木 春花	Astrid Marie Dahl Lund アストリド・マリエ・ダル・ルンド	女	父 ブライアン 母 メッテ 姉 アナ
和田 笙	Peter Marius Lund Nørgaard ペーター・マリウス・ルンド・ノーゴ	男	父 スティーン 母 メッテ 兄 ニルス
	Nils Foxil Volstrup ニルス・フォクシル・ウォルストラップ	男	父 クヌド 母 タニヤ 姉 イベン
団長 大澤 玲裕 引率教諭 斎藤 智弥	Hans Henrik Hansen ハンス・ヘンリク・ハンセン	男	妻 ジャネット 娘 イダ 息子 マーティン

○ 派遣日程表

月日	行程	内容	食事	宿泊
8/9 (木)	市役所 ⇒新千歳空港 14:00 15:10	《1日目~2日目》 13:40 市役所裏玄関に集合 14:00 市バスで新千歳空港へ 15:10 新千歳空港到着後、出国手続き	機内食	機内泊
	新千歳空港 ⇒香港国際空港 17:40 21:35 (香港時間)	17:40 キャセイパシフィック航空(C X 583 便)で香港国際空港へ 21:35 香港国際空港着 (約4時間55分)		
8/10 (金)	香港国際空港 ⇒コペンハーゲン空港 01:10 06:30 (デンマーク時間)	01:10 キャセイパシフィック航空(C X 227 便)でコペンハーゲン空港へ (約11時間20分) 06:30 コペンハーゲン空港到着後、入国手続き(荷物受取り、税関審査)空港から駅へ徒歩移動⇒アシストあり	機内食	ホテル
	コペンハーゲン⇒コペンハーゲン空港駅 08:34 中央駅 08:48	08:34 普通列車でコペンハーゲン中央駅へ⇒アシストあり 08:48 コペンハーゲン中央駅到着	派遣団	
	コペンハーゲン⇒ホテル中央駅 08:48 09:00	08:48 駅からホテルへ徒歩移動⇒アシストあり 09:00 ホテルで荷物を預かってもらう ホテル名：コンフォートホテルヴェスターブロ (Comfort Hotel Vesterbro)		
	コペンハーゲン市内	09:30 ホテルに荷物を預けた後ホテルを出発し、コペンハーゲン市内を見学		
	ホテル 15:00	15:00 ホテルチェックイン⇒アシストあり		
8/11 (土)	ホテル ⇒コペンハーゲン中央駅 09:00 09:10	《3日目》 09:00 ホテルチェックアウト コペンハーゲン中央駅へ徒歩移動	ホテル	ホスト
	コペンハーゲン⇒オーデンセ駅中央駅 09:52 11:08	09:52 コペンハーゲン中央駅で列車(IC43)に乗り、オーデンセへ	派遣団	
	オーデンセ市内	11:08 オーデンセ駅着 アネさん引率でオーデンセ市内を徒歩で見学	ホスト	
	オーデンセ駅 ⇒リング駅 15:13 15:29	15:13 オーデンセ駅で普通列車に乗り、リングへ 15:29 リング駅着 ホストファミリーと対面し、各家庭へ		
8/12 (日)	ファボー・ミッドフュン市内	《4日目~7日目》 ・ホストファミリーと過ごす ・レゴランド見学 ・ノーアエア校訪問、森の幼稚園訪問 ・図書館見学、ファボー・ミッドフュン市役所表敬訪問 ・老人ホーム訪問 ・リングフリー校授業参加 ・イーエスコー城見学	ホスト	ホスト
8/13 (月)				
8/14 (火)				
8/15 (水)				
8/16 (木)		ホスト宅 ⇒リング駅 09:00	《8日目》 それぞれホストファミリー宅からリング駅へ向かう 09:00 リング駅到着	ホスト
	リング駅 ⇒オーデンセ駅 09:29 09:45	09:29 普通列車でオーデンセ駅へ 09:45 オーデンセ駅着	派遣団	
	オーデンセ駅 ⇒コペンハーゲン中央駅 09:51 11:05	09:51 列車(IC22)に乗り換え、コペンハーゲン中央駅へ 11:10 駅からホテルへ徒歩移動 11:20 ホテルにチェックイン ホテル名：コンフォートホテルヴェスターブロ (Comfort Hotel Vesterbro)		
	コペンハーゲン⇒ホテル中央駅 11:10 11:20			
	コペンハーゲン市内⇒bronby	11:50 ガイドのヤイスさんとともにスポーツ施設を見学		
	コペンハーゲン市内 17:00	17:00 自由行動		
8/17 (金)	ホテル ⇒コペンハーゲン中央駅 10:00 10:10	《9日目~10日目》 10:00 ホテルチェックアウト コペンハーゲン中央駅へ徒歩移動	ホテル	機内泊
	コペンハーゲン⇒コペンハーゲン中央駅 10:27 空港駅 10:40	10:27 普通列車に乗り、コペンハーゲン空港駅へ 10:40 コペンハーゲン空港駅到着後、空港まで徒歩。出国手続き	派遣団	
	コペンハーゲン⇒香港国際空港 空港 14:10 06:30 (香港時間)	14:10 キャセイパシフィック航空(C X 246 便)で香港国際空港へ 06:30 香港国際空港着 (約10時間20分)	機内食	
8/18 (土)	香港国際空港 ⇒新千歳空港 07:55 14:00 (日本時間)	07:55 キャセイパシフィック航空(C X 582 便)で新千歳空港へ (約5時間05分) 14:00 新千歳空港到着後、入国手続き(荷物受取り、税関審査)その後、市バスに乗り	機内食	
	新千歳空港 ⇒市役所 15:00 16:10	15:00 市バスで市役所へ 16:10 市役所到着		

○ 各学校独自の取組について

次の学校では、学校独自の取組として、デンマーク王国での貴重な体験を通して、生徒が現地で学んだことや感じたことを同世代の生徒に発表する場を設けていただき、国際性豊かな人材の育成や本事業のPRに寄与していただきました。

学 校 名	学 年	生 徒 名
登別市立西陵中学校	2年生	石山 明寿香
【取組内容】 ⇒9月4日（火）開催の「海外体験報告」において、石山さんがデンマーク王国での体験内容を発表。		

学 校 名	学 年	生 徒 名
北海道登別明日中等教育学校	1回生	和 田 笙
【取組内容】 ⇒9月28日（金）開催の1回生集会において、和田くんがデンマーク王国での体験や研修内容を発表。		

学 校 名	学 年	生 徒 名
登別市立緑陽中学校	1年生	山根 大翔
	3年生	鈴木 春花
【取組内容】 ⇒山根くんと鈴木さんがデンマーク王国での体験や研修内容を発表する予定。日程や内容などは未定。		

研修テーマ

日本とデンマークの交通機関の違い

登別市立幌別中学校 1年 村元 優希

僕は、「日本とデンマークの交通機関の違い」について調べました。日本とは明らかに違うところがあったので紹介しようと思います。

まず、電車についてです。電車に乗る時は、駅に行き券売機で乗車券を買います。ここまでは同じです。このあとが日本と違い、改札が無いので、そのままホームへ行き、列車にのります。車内で、もし改札係の人が廻ってきた時には、自分の切符を見せます。無人駅にも、大きな駅と同じように、エレベーターや案内の電光掲示板があります。また、デンマークで



は、時刻表どおりの時間に列車が来ることはめったにありません。しかし、乗り遅れるのも困るので、時間に余裕を持って行動しなくてはなりません。日本でいう「Suica」のようなカードもありました。僕が見かけたのは「Check in d」と「Check u d」の2種類でした。これらのカードを使って乗車する時は、ホームにある機械にかざして“OK”と表示されれば、電車に乗ることができます。電車のドアにはボタンが付いていて、それを押してドアを開けて乗ります。扉が閉まる時には、ドアの上の赤いランプが点滅して知らせてくれます。電車の座席は、市民会館の大ホールの席のように座面が上がるものと、一段高くなったところには特急の座席のような立派なものもあり驚きました。座面が上がる席の方には、自転車を固定するホルダーがありました。車内の電光掲示板には、時刻と行先が表示されています。乗車中に廻ってくる改札の際に、もし無賃乗車がわかったら、700クローネ（約12,000円）の罰金を払わなくてはなりません。そして目的の駅に着いたら、またボタンを押してドアを開け、列車から降ります。ホームから階段かエスカレーターを使って上にあがれば、それで終わりです。切符の回収もありません。ちなみにデンマークでは、よほど大きい駅以外は無人駅がほとんどだそうです。

次はバスについてです。バスは、都市部と地方では乗り方が少し違うのですが、今回はコペンハーゲンでしかバスに乗らなかったため、その時のことを紹介します。まず自分の乗りたいバスがあと何分で来るのかを、バス停の電光掲示板で確認します。バスが来たら、前から乗って、そこで料金も払います。ただし、「コペンハーゲンカード」を持っている場合は、それを見せて乗ります。降りる時は、一つ手前のバス停を過ぎたらブザーを押します。すると「BUS STOP」と



いうライトが光ります。停車したら、後ろのドアから降りるという仕組みです。料金を先に払うところが登別と違いました。あと、コペンハーゲンでは、とても長くて大きなバスが走っていました。

今回僕は、公共交通機関の違いを色々と知ることができました。日本も海外の良いところを取り入れていけたらいいのではないかと思いました。そして、この研修をとおして、他の国の交通機関についても知りたいと思いました。

デンマークの公共施設について

登別市立鷺別中学校 2年 本田 優美香

私は、「デンマークの公共施設」を自分の研修テーマに決めて、主に日本と違う点を調べてきました。

まず、最初に紹介するのは、デンマークの市役所です。私が行ったのはファバー・ミッドフュン市の市役所でした。この市役所は150人以上が働いていて、市長は4年に一度、25人の議員の話し合いで決めるそうです。建物は1970年頃に建てられ、2005年くらいから少しずつ増改築されて、今のようないな建物になっているそうです。学校のサポートなどもしていますが、日本と違うと思った点は、オリジナルのアートや音楽を作って披露しているところでした。日本ではそういうのはあまり聞かないと思い、日本との違いを実感し、デンマークはすごいと思いました。

二つめは、図書館です。リングの街なかにある公共の図書館で一番印象に残ったのは、大きいおもちゃがたくさん置いてあったことと、壁や扉に描かれていた絵です。日本の図書館は、静かに本を読む場所なので、おもちゃをこんなにたくさん堂々と置いてあるのも珍しかったし、扉に描かれたイラストも迫力があり強い印象を受けました。



リングの公共図書館内

また、座る場所も様々な場所に確保されていたし、私の家の近所の図書館に比べて、パソコンがたくさん置いてあり、登別の図書館でも増やしてくれたらいいな、と思いました。

最後は、デンマークの施設で見た「トイレ」を紹介します。デンマークのトイレは場所によって、造りが少し変わっているところがありました。まずは、コペンハーゲン空港のトイレです。日本と違うのは、トイレトペーパーのホルダーと個室にあるゴミ入れです。日本ではだいたい1ロールがホルダーに収まっていますが、ここでは修正テープの中身のような大きなものがケースに収まっていて、引っ張り出して、ギザギザでちぎる、という方式でした。ゴミ入れは日本にあるゴミ箱ではなく、袋でした。次はショッピングセンターのトイレです。日本と違うのは、ペーパーホルダーと流すボタンです。このホルダーは中に大きなロールペーパーが詰まっていて、真ん中の穴から引っ張り出してちぎる、という方式です。水を流す方法は、日本ではレバーやセンサーですが、ここは水のタンクの上にボタンが付いていました。次に市役所のトイレは、ペーパーは日本と同じ様な形ですが、流すボタンがタンクの上に付いていました。また、リングフリー校や森の幼稚園、ホストと行った海のトイレには、ペーパーをたくさんスト

ックできる縦長のケースが壁に備えてありました。オリンピック関連施設のトイレでは、壁に円形の流すボタンが付いていました。

このように、実際に暮らしてみると、細かいところにもいろいろ日本との違いがありました。私が今回見てきた中で、デンマークの公共施設は、日本よりデザインに凝っていてすてきなものが多いと感じました。しかし、デンマークのトイレではペーパーが遠かったり、ちぎりにくかったりと、良いことばかりではありませんでした。デンマークの良いアイデアを、生活の中に取り入れてみるのも楽しいと思いました。

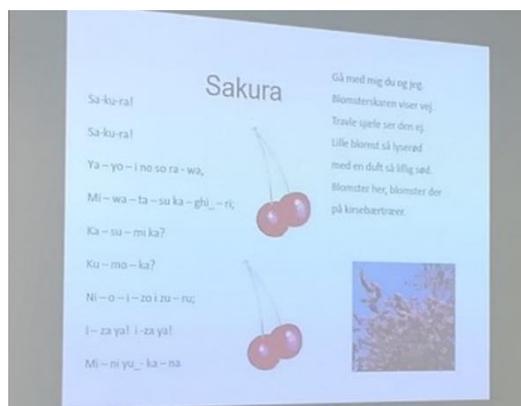


デンマークの音楽について

登別市立西陵中学校 2年 石山 明寿香

私は、「デンマークの音楽」について調べました。日本とは違うところがたくさんあったので、紹介します。

まず、朝の会についてです。私の学校の朝の会は、各クラスであいさつや欠席者の確認をしたり、一日の目標を決めたり、また、先生からの連絡事項を聞く等が普通だと思います。しかし、デンマークのリングフリー校の朝の会は、音楽ホールに全校生徒が集まり、行われていました。私たちが訪れた日は、最初に全員で、3曲歌を歌いました。その中には、日本の「さくら、さくら」もありました。ローマ字で書かれた日本語の歌詞がスクリーンに映し出され、みんなが、それを見ながら日本語で歌ってくれたのが、とても嬉しかったです。歌の伴奏は、日本ではピアノやCDが普通かと思いますが、ここでは、ピアノの他にバイオリンの伴奏もありました。その音楽ホールは、きれいに装飾されていて美しかったし、それを見て、とても楽しい気持ちになりました。また、どの生徒も大きな声で歌を歌っていたのがとても印象的でした。



次に、ホストファミリーの家での音楽についてです。ホストファミリーの家にはピアノがありました。私がピアノを弾くと、とても喜んでくれて、一緒に幸せな時間を過ごすことができました。

リングフリー校でのお別れ会の時に、私はピアノを弾き、春花さんはフルートを演奏しました。日本でピアノを弾くと、みんな「すごいね。」と言ってくれますが、それは基本的に指の動きなどについてです。しかし、デンマークの人たちは「芸術の面で感動した。」などとほめてくれました。喜び方も違って、ただ拍手をするのではなく、大きな拍手を笑顔でしてくれました。私の音楽を理解



してくれる人たちが、この国にはたくさんいるのだとわかり、ますますデンマークのことが好きになりました。

最後に、デンマークで人気のあるデンマーク人の音楽家などを紹介します。まずは、「ルーカス・グラハム」というグループです。代表作に「7 Years」という曲があります。歌詞にとっても重みのある良い歌だと思いました。また、私たちがホームステイをしたファボー・ミッドフュン市にも、この街出身の有名なクラシックの作曲家がいます。それは「カール・ニールセン」という人です。リングゲの人たちはとても誇りに思っているそうです。



カール・ニールセン

これらの経験から私は、デンマークの人々の生活には、たくさんの音楽があふれていて、身近にあるものだと知りました。また、彼らがクラシック音楽に対してとても誇りを持っていることや、芸術的なものに対する関心の高さを知り、デンマークの人たちが大好きになりました。またいつかデンマークに行き、デンマークの人たちのためにピアノを弾いてみたいです。

デンマークのスポーツについて

登別市立緑陽中学校 1年 山根 大翔

僕の研修テーマは、「デンマークのスポーツについて」です。デンマークで人気のあるスポーツなど、いろいろ発見したことを紹介したいと思います。

デンマークで一番人気のあるスポーツは「フットボール」です。デンマークでは、30万人以上のフットボール選手がいるそうです。僕たちは、リングの子供たちのフットボールクラブと一緒にプレーしました。大人も一緒に楽しみました。他にもバドミントンやスイミング、セイリングなども人気だそうです。デンマークの子供たちは、スポーツをする時、まず楽しむことが第一と考えているそうです。男子も女子もフットボールが大好きで、よくするそうです。

僕たちが訪問したリングフリー校には、ボールなどを使って遊べる体育館やトランポリンがある体育館、ジムなどがありました。その学校での選択授業で、僕はドッジボールのような球技を選びました。日本のドッジボールとは少しルールが違いました。



ボールを当てられたり、投げたボールが相手にキャッチされたりすると、外野に行きます。次に内野の人が全員アウトになると、最初から外野にいた人が内野に来て、その人たちもアウトになったら、そのチームは負けというルールです。僕は競技中、相手チームの人にボールを当てたり、僕に投げられたボールをキャッチしたりできました。チームメイトみんなのおかげで、僕のいたチームは優勝しました。すごく楽しかったです。トランポリンを選択した人たちも楽しそうに跳んでいました。僕はトランポリンもやってみたかったです。ジムを選択した人はいませんでした。僕はそれもやってみたかったです。



最終日のコペンハーゲンで、オリンピック関連のスポーツ施設を見学しに行きました。この施設は1982年に建てられました。中には、いたる所にデンマークの歴代有名選手の像が飾られていました。僕たちは、実際に試合が行われたバドミントンコートや一流選手しか使えないトレーニングジム、卓球の練習場、デンマークの代表選手たちが練習をするフットボール場など、一般の人が普通は入れない場

所を案内してもらいました。

僕は、この研修テーマを通して、フットボールを中心に、デンマークで人気のあるスポーツやとてもスポーツが盛んなのだということがわかりました。似たようなスポーツでも、日本とルールが同じだったり、全く違ったり、いろいろなことを知りました。スポーツは言葉が通じなくても楽しめる素晴らしいものだと思います。

デンマークの建物について

登別市立緑陽中学校 3年 鈴木 春花

私は、「デンマークの建物」について調べました。日本とは違うものを多く発見してきたので紹介します。

まず、コペンハーゲンに到着し、ひとたび外に出ると、日本とは全く異なるデザインの建物や道路標識がありました。建物は、ヨーロッパのおしゃれなイメージそのもので、日本とは違い、レンガ造りの家が多かったです。また、建物の外壁は、様々な色が使われていて、とても鮮やかでした。到着後は天気も良く、青空が映えるきれいな風景で、夢の中にいるような気分でした。道路はアスファルトではなく、石畳の道路があったりしました。様々な種類の石畳があり、とてもきれいなものでした。信号機は、日本と比べて低く、歩行者用信号は時間が短かったです。自転車用の信号やレーンもあり、本当に自転車の普及率が高かったです。車はフォルクスワーゲンやプジョーなど、ヨーロッパ製のものが多かったです。自転車は、日本のものとデザインにあまり差はありませんでしたが、レンタル用の自転車にはディスプレイが付いていました。



駅等の公共施設だけでなく、一般の家も、とてもすてきな造りで、ヨーロッパらしいと思いました。

私はこの研修テーマを通して、大きく二つのことを学びました。

一つは、デンマークにも独自の文化があり、それらは、建物や人々の生活様式に大きな影響を与えているということです。特に、日本的なものである「和」とヨーロッパの「洋」はとても異なる文化なのだということを学びました。



もう一つは、一歩自分の国から飛び出すと、そこには、これまでの自分には無い新しい世界が広がっているということです。このことから、デンマーク以外の国にも訪れてみたいくなりました。

今回の訪問を通して、デザインというものに対する自分の視野が広がりました。この経験を活かし、今後は世界の様々なデザインに注目していきたいと思います。

デンマークの子供の遊び

北海道登別明日中等教育学校 1 回生 和田 笙

僕は、「デンマークの子供の遊び」について調べてきました。デンマークのホストの家は、ゲーム機やソフトがたくさんありました。僕のホストはWiiやプレイステーションを持っていました。日本でも有名で大人気の「スーパーマリオブラザーズ」や「マリオカート8」も持っているのを見て、マリオはデンマークでも人気なんだなと思いました。また、中学生や高校生を中心に「フォートナイト」というゲームが流行っていました。ホストのペーターも持っていて、大好きだと言っていました。しかし、デンマークでも子供のゲームの時間が長すぎるのが問題になっているそうです。ファボー・ミッドフュン市長は、「インターネットを通してゲームをすることは、他の人たちとたくさん関わりを持てるから、とても社会的である。悪いことばかりではない。ゲームの分野を極めれば、それを武器に海外へ出ていくこともできる」と言っていました。

デンマークの伝統的な遊びとしては、「トランポリン」があります。だいたいの家の庭にはトランポリンがあり、学校の体育館の床にも大きなトランポリンが作られていました。僕のホストの家にもあり、遊ばせてもらったら、とてもよく跳ねて楽しかったです。また、「縄跳び」や「かくれんぼ」もデンマークの伝統的な子供の遊びです。これらは僕たちも小さい時からしている遊びなので、同じだなと思いました。



最近流行っている遊びで「ディアボロ」というのがありました。これはジャグリングの一種で、お椀を2個くっつけたような形のコマを、糸でつないだ棒をあやつり、落とさないようにクルクル回す遊びです。学校にも置いてあったので、僕もチャレンジしてみましたが、全くできませんでした。コマを回すのさえ難しかったです。

デンマークで一番人気がある遊びは、「サッカー」です。学校に大きなサッカー場があり、みんなそこでサッカーをしていました。僕もホスト達と一緒にサッカーをしました。ボールがあれば、いつでもどこでもできるのが人気の理由だそうです。学校の中にはサッカーのボードゲームもありました。そしてビリヤードの台もありました。休み時間には、みんなそこに集まって遊んでいました。

日本と同じ遊びや違う遊びなど、デンマークにもたくさんの遊びがあることを知りました。僕が見た「デンマークの子供の遊び」は、とにかく楽しむ、というところが日本と全く同じでした。ゲームで対戦したり、みんなで1つのボールを追いかけたりして、とてもにぎやかで楽しかったです。

「遊び」は、みんなをつなげてくれる、
「言葉のかわり」だと思いました。言葉は
通じなくても、みんな一緒に遊ぶことで、
仲良くなれるということを実感できまし
た。



感想文

海外への僕の第一歩

登別市立幌別中学校 1年 村元 優希

僕は、今回のデンマークが初めての海外でしたが、色々と良い経験をする事ができました。

初めて乗る外国への飛行機の座席がビジネスクラスで、とても快適でした。その分、帰りの飛行機がなかなか辛かったです。

初めての海外で、食べ物が合うかどうかにも心配していました。僕は食べ物にアレルギーを持っているので、その点も不安でしたが、デンマークの食べ物は僕に合っていて、予想以上に美味しかったです。

僕のホストファミリーは、とても優しくしてくれて、色々な所に連れて行ってくれるうちに、日本から持って行ったお土産を渡すタイミングを逃してしまい、最後まで直接渡せずじまいでした。それらのお土産は、リングを出発する日に部屋のベッドの上に置いてきました。

また、僕は荷物のパッキングが下手で、帰りのコペンハーゲンのホテルでも上手くできず、荷物を詰めたり出したりしているうちに、日本へのお土産をホテルの部屋に忘れてきてしまいました。あとから、それに気づいた時はがっかりしましたが、今度は気をつけようと思いました。



そして、帰りの香港から千歳への飛行機を降りたところで、大変な失敗をしてしまいました。入国審査の所で、パスポートと財布を飛行機の中に忘れてきたことに気づきました。飛行機のスタッフに探してもらい、無事に見つかったので日本に入国することができましたが、斎藤先生や他のみんなに迷惑をかけてしまいました。さらに市役所へ帰ってくるバスの中でも財布を忘れました。これらは、僕にとって大きな反省のひとつです。

また、派遣団のみんなと仲良くなれたことが、とても嬉しかったです。ただ、お水を買う時、僕は財布をホストの家に忘れてきていました。男子2人にどれだけ頼んでも、お金を貸してもらえなかったのも、もうちょっと仲良くなりたいです。

いろいろな事があったデンマークの旅でしたが、体調を崩さずに全部の日程を楽しめたのが良かったです。日本とデンマークの文化の違いを発見することができましたし、実際の暮らしや人情に触れることもできました。デンマークという国がとても好きになったので、ぜひもう一度行ってみたいです。

初めての海外

登別市立鷺別中学校 2年 本田 優美香

私がこの登別市デンマーク友好都市中学生派遣交流事業に参加しようと思った理由は、簡単に言うと、海外に行くことは良い経験になると思ったことと、行くことで自分の中で何かが変わるのではないかと思ったからです。デンマークに行くまでは、ずっと「英語も話せないし、どうしよう」と心配ばかりしていましたが、実際に行ってみて心に残ったことをいくつか紹介します。

滞在中、私が最初にデンマークの人と関わったのは、コペンハーゲン市内の見学中、ホットドッグ屋さんに行った時です。初めての海外での買い物にとっても緊張して、言葉がうまく出てこなくて、わかりにくい英語になってしまったのに、お店の人は理解しようとしてくれて、さらに、そのお店の人気商品まで教えてくれました。

次に思い出に残っているのは、リングフリー校の体育館です。体育館は2つあって、そのうちの1つは体操用の体育館でした。私は選択授業でここを使わせてもらいました。本格的なトランポリンやマットがあつたり、飛び込みができるスペースがあつたりして、楽しかったです。もう1つは球技用の体育館でした。



ホストとのエピソードもたくさんあり、一緒に過ごした時間は大切な思い出です。ホストの家で食べたお菓子やご飯も印象に残っています。私が一番美味しいと思ったお菓子は、「FLØDE BOLLER」というお菓子です。メレンゲクリームがチョコでコーティングされていて、とても甘かったです。すごく美味しかったです。また、ホストと一緒にいったショッ

ピングセンターも思い出に残っています。ショッピングセンターに入っているお店は、その入口と出口がしっかり区別されているところが日本と違いました。海に行った時には、トランポリンのように跳ねて遊ぶものやミニゴルフ場があつて、ホストとゴルフ対決もしました。英語は自分のできる範囲でしたが、少しでも会話ができて、仲良くなれて良かったです。また、レゴランドにも一緒に行きました。中でも一番の思い出は、私のホストとその友達とジェットコースターに乗ったことです。もともとジェットコースターはあまり好きではなかったのですが、今回乗ってみてとても好きになりました。アイスを分けてくれたり、お土産を買ってくれたり、たくさん思い出ができました。ホームステイ最後の夜は、学校でお別れパーティを開いてくれました。そこでは、持ち寄りのご飯がたくさん並んでいて、どれも美味しそうで、私は取りすぎてしまいました。一番驚いたのは、食べ物の周りにハチがたくさん飛んでいたことです。私のご飯にもハチが

入ってしまい、とてもショックでした。私たちみんなでハチを捕まえようとして、コップに閉じ込めたのが面白かったです。そして、私たちがリングを発つ日には、お弁当を持たせてくれたり、メッセージをくれたりしたことが、すごく心に残りました。

私は、デンマークは本当に優しい人たちばかりだと思いました。初めての海外で、英語もあまり話せない私に親切に接してくれて、とても嬉しかったです。この派遣交流事業に参加したことで、デンマークの良さを身近に感じることができました。そして、ほんの少しですが自分が成長できたのではないかと思います。



英語の大切さ

登別市立西陵中学校 2年 石山 明寿香

まず最初に、デンマークを訪れてみて、特に驚いたところを3つ紹介します。

一つめは、お弁当に生のニンジンやリンゴを丸のまま持たせてくれたことです。特に変わった味はしませんでした、そのまま嚙りつくのは少し抵抗がありました。

二つめは、ホームステイ先の家で、お米やカレーライス、カップラーメン等の日本食を毎日のように出してくれたことです。知らない所に来ている不安を思ってくれたのか、みんながほんとうに優しく接してくれたのが印象的でした。おかげで疲れも取れて、安心して過ごすことができたので、ホストファミリーにはとても感謝しています。

三つめは、幼稚園の子にも英語が通じたことです。今の日本では本格的に英語を勉強し始めるのは中学校からなので、デンマークの英語教育はとても早くから始まるのだなと思いました。今回の派遣の中で、飛行機内の中国の人たちや私のホストの家族など、多くの国の人に英語が通じるという事に驚きました。しかし、ホストステューデント達と話すたびに、自分の思いがすぐに上手に伝えられなかったり、聞き取れなかったりしたことがたくさんあり、もっと英語を勉強すればよかったという後悔がすごく残りました。私はこのような体験をさせていただき、英語の勉強をさらに頑張ろうという強い励みとなりました。



私は、ホストステューデントのリゼッテと今でも連絡を取り合っています。これから、使える英語の勉強をもっと頑張って、今度は自分の家族と一緒にデュアン家のみんなに会いに行きたいと思っています。リゼッテは、家で飼っている動物たちに私を紹介してくれました。犬のチャーリーとはとても仲良くなれたので、お別れの時はとても寂しかったです。



いつか再会した時には、またチャーリーと遊んだり、リゼッテともたくさん話をしたりできるように、それまで英語の勉強を頑張っていきたいと思っています。

忘れられない最高の旅行

登別市立緑陽中学校 1年 山根 大翔

僕は英語ができないから、「ホームステイはいやだな」と、デンマークに行くまでの不安が大きかったです。

1日目は、コペンハーゲンでの観光で、いろいろな所に行って遊びました。チボリ公園では、地図を片手にいくつもの絶叫マシンに乗って回りました。ホテルに戻った時、日本人の団体客を見かけて、少しほっとしたような気がしました。

2日目は、ホストファミリーの待つリングゲに行きました。リングゲ駅に着くと、デンマークの旗を持って、たくさんの人たちが歓迎してくれました。僕のホストはどんな人かなとドキドキしていると、ホストのマウヌスとお母さん、妹のサラが優しく声をかけてくれました。そして車に乗って、リングゲの街を紹介してくれました。聞き取れなかったら、もう一度ゆっくり話してくれました。ちょうどこの日は僕の誕生日で、お父さんと末っ子の妹アナが家でプレゼントとケーキを用意して、待っていてくれました。そしてケーキを食べ終わると、家にある卓球とダーツ、トランポリン、Wiiで遊びました。一緒に遊んでいるうちに、不安は無くなっていきました。



3日目は、ホストの子たちとイーエスコー城に行きました。一緒に行動しているうちに、他のホストの子たちとも仲良くなることができました。



4日目は、ホストが貸してくれた自転車で学校へ行きました。そこから、市役所、図書館、教会、森の幼稚園を訪問し、そのあとみんなでフットボールをしました。家では末っ子のアナにおもちゃの刀をあげたら、すごく気に入ってくれました。そして、みんなでUNOをして、もっと仲良くなりました。

5日目は、7学年の生徒たちとレゴランドへ行き、ジェットコースターなどに乗って、みんなで楽しみました。

6日目は、ホストと過ごせる最後の日でした。お別れパーティが終わったあと、自転車で帰宅する時に転んで、ひざから血が出ました。お父さんが優しく手当てをしてくれました。最後の夜なので、いつもより遅くまでUNOをして遊びました。

そして、一番来てほしくない日。お父さんが運転する車でリングゲ駅に行きまし

た。駅に着くと、あっという間に電車が来てしまいました。リングのみんなが優しく手や旗を振ってくれました。日本を出る時は不安だったのに、この時には寂しい気持ちでいっぱいになっていました。

コペンハーゲンでは、もう一度チボリ公園へ行き、遊びました。どんなに遊んでも寂しさは無くなりませんでした。ホテルの部屋では、みんなで「ホテルじゃなくて、ホストの家がいいな」と話していました。何度そう言っても戻れないのに言わずにいられませんでした。

だから、また今度、必ずリングへ行こうと思います。僕にとって忘れられない最高の旅行になりました。

デンマークでの思い出

登別市立緑陽中学校 3年 鈴木 春花

私が海外に行くのは今回で2回目でした。飛行機は慣れていましたが、言葉の通じない国で、どうコミュニケーションを取るか少し不安になりましたが、デンマークでのホームステイやリングフリー校での会話を通して、少ししか英語が話せなくてもコミュニケーションが取れることがわかり、嬉しかったです。



不安が無くなり、外国の言葉にしっかりと触れることができました。

ホームステイ中は、デンマークの食文化や生活について、たくさん学びました。ホストの家での朝食はいつも食パンで、バターやジャムをつけて食べました。野菜や乳製品など健康的なものも多く、とても美味しかったです。ホストファミリーと話すのは少し不安がありましたが、みんなが優しく接してくれたので、とても楽しかったです。ステイ中は、外でフットボールをしたり、家の中でゲームをしたり、とても充実した生活でした。

私がデンマーク滞在中に一番楽しかったことは、ホストステューデントと周ったレゴランドです。レゴランドにはたくさんのアトラクションがあり、様々なジェットコースターに乗りました。どれも面白く、楽しい時間でした。



リングでの滞在が終わり、コペンハーゲンに戻って、最後のデンマーク観光を楽しみました。夜になっても空が明るく、人もたくさんいたので、流れに沿って歩くことが大変でしたが、おみやげもしっかり買えました。

オリンピック関連施設に行ったときは、ホストステューデントと楽しんだフットボールを思い出して、また一緒にやりたいなあと思いました。その施設内には、デンマークの有名なスポーツ選手の写真が壁にたくさん貼られていたり、現役の選手が実際にトレーニングをしている様子を見せてもらったりしました。デンマークのスポーツ文化はとても活発で楽しそうだと感じました。日本に帰って、デンマークのことを思い出すと、もう一度デンマークに行きたいという気持ちを強く感じます。一緒に行ったみんなも、高校や大学からデンマークに行

きたいと話していて、私もそう思いました。

もし、また行く機会があれば、ホストファミリーと再会したり、今回行けなかったデンマークの名所などを訪れてみたいと思います。

思い出に残る旅行

北海道登別明日中等教育学校 1 回生 和田 笙

8月9日、僕はデンマークへ出発しました。初めての海外旅行、初めてのホームステイに出発前はドキドキして、「やっぱり行きたくない」と不安に思いました。

コペンハーゲン空港に着くと、とても広く、でもちょっと荷物の置き方などが雑で、日本と違うなと思いました。コペンハーゲン中央駅から街中へ出ると、あたりの様子がとてもカラフルできれいで、今まで見たことの無い景色でした。とても大きな都市で、車も多かったですが、自転車も多かったです。

日本を出発して3日目、いよいよホストファミリーに会いました。まだ、英語を勉強し始めたばかりだし、外国の人とあまり話したことが無かったので、ちゃんとコミュニケーションが取れるか、すごく不安に感じていました、けれど、ホストの家に着いて、「何がしたい？」と聞かれたので、「何でも！」と答えると、



「じゃあ、マリオしようか」と言ってくれました。そしてマリオカートをして遊びました。ホストステューデントのペーターは色々なゲームを持っていたので、お兄ちゃんのニルスと一緒に3人でたくさんゲームをしました。他にはトランプもしました。「ババ抜き」もしましたが、ルールは日本と同じでした。「ババ抜き」は世界共通だと思いました。

レゴランドでは、ホストの生徒たちと一緒に回りました。色々な種類のジェットコースターを楽しむことができました。デンマークの人たちはみんな英語が上手で、僕が答えやすいように質問をしてくれました。複雑な内容の話をする時は、Google翻訳アプリを使ってくれたので、コミュニケーションで不便

を感じることはあまりありませんでした。

リングの街はレンガ造りの家や木造の家があり、庭は広く、家の中はゆったりとしていました。学校の校舎はレンガ造りで、広々としていて、日本の学校の造りとは違っていました。

初めて見る外国の景色、初めて触れる文化、初めて味わう食べ物、



初めて出会った人々でしたが、何もかもが楽しく、素晴らしいと思えることばかりでした。またいつか必ずデンマークへ行きたいです。

引率者報告書

団長 登別市観光経済部商工労政グループ 大澤 玲裕

【派遣日程の経過報告】

■ 8月9日（木） Day1

台風13号が関東に接近し、千葉県と茨城県の一部が暴風域に入っている中、13時30分に市役所に集合し、多くの関係者に見送られ14時00分に登別市役所を出発した。昨年度までは新千歳空港から成田空港を経由してコペンハーゲン空港に向かうため早朝の出発であったが、今年度は香港空港を経由することとなったため、午後に出発となり、生徒たちは良く眠れたようであった。また、結果的に、経由地を変えたことにより、台風の影響を受けずに予定どおり出発することができ、今年度の団員は、「何かを持っている」と感じていた。



新千歳空港に到着後、旅行会社の担当者から必要書類等を受け取り、外貨両替所で生徒たちのお小遣いと団費をデンマーククローネに両替した。市から事前に外貨両替所に連絡していたので、デンマーククローネが不足することなく、生徒たちもスムーズに両替ができた。

その後、チェックイン、保安検査、出国手続きを経て、国際線出発ロビーにて待機するも、出発まで時間があつたため、集合時間を決め、自由行動とした。生徒たちは、お菓子や飲み物などを購入したものの、新千歳空港の国際線ロビーは、お店も多くなく、すぐに集合場所に戻ってきて、出発ゲート付近でくつろいでいた。香港空港行きCX583便は、30分以上搭乗時間が遅れたものの混乱なく搭乗することができた。

飛行機に搭乗後、各自、チケットに書かれている番号の座席へ向かうこととなるが、飛行機の前方から乗り込むため、ファーストクラス、ビジネスクラス、エコノミーの順番となる。当然、私を含め団員全員がエコノミーと思っていたため、何の躊躇もなくエコノミー席まで向かい座席番号を確認する。しかし、チケットに書かれている番号は20番代で既に通り過ぎていた。座席番号まで戻るが、そこはビジネスクラスの席である。キャビンアテンダントにつたない英語で座席を確認するが、ここで良いとのこと。そんな訳が無いと思い、再度、違うキャビンアテンダントに確認するが、ここで間違いなしとのこと・・・我々全員の席がビジネスクラスだった。

生徒たち、斎藤先生と私も含め大興奮状態であった。もちろん全員がビジネスクラス初体験のため、勝手が分からず、身の回りの装備等々をいじりまくる。キャビンアテン

ダントから名前と呼ばれ、飛行機が飛び立つ前にウエルカムドリンクサービスもある。機内食では、最初にでてきたホタテとエビの料理を食べ、美味しすぎてレストランで食事をしているかのような感覚になっていた。エコノミーしか知らない私は、食事に満足していると、何故かメイン料理（ホタテとエビの料理）の皿しか下げてくれない。メイン料理と思っていたものが前菜料理で、この後、本当のメイン料理（肉料理など）が出てくる。最後のデザートは、カットフルーツやハーゲンダッツのアイスクリーム、全てが美味しくて大満足であった。生徒たちも機内食に大満足の様子で、食事の後はビデオや音楽を楽しんでいた。私は、眠くもないのに座席をフラットにしてみても、本当に平らになることを確認した。設備が良すぎて、寝ることがもったいないと思った。あっという間に5時間程経過し、香港空港へ到着した。



香港空港は桁違いに大きく、乗換ゲートが遠い場合は、空港内を走行している電車を利用することとなる。幸い、到着ゲートから乗換ゲートまで近かったものの、それでも結構な距離を歩くこととなった。

落ち着いたところで香港空港までのチケットをよくよく見ると、「business」と書いてあることに気づく。やはり「何かを持っている」ようだ。（後ほど判明するが、旅行会社の事情でビジネスクラスになったとのこと）

■ 8月10日（金） Day2

香港空港にてコペンハーゲン空港行きCX227便への搭乗を待つが、深夜ということもあり、生徒たち、特に女子は眠たそうにしている。売店も閉まっているため、出発ゲート付近で待つしかない。優美香が「次もビジネスかなあ？」と言うが、チケットには「Economy」と書いてある。定刻どおりに香港空港を出発した。生徒たちには、ここから約11時間の長時間の飛行となるため、できるだけ機内で寝よう伝えた。

現地時間6時30分にコペンハーゲン空港に到着した。驚いたことに、空港内の案内板に日本語がある。生徒たちとともに入国手続きを受ける。私が男子3名、斎藤先生が女子3名を見ながら入国手続きを受けた。事前研修で入国手続きの際のQ&Aは勉強してきたが、いざ本番を迎えると生徒たちは不安そうな顔をしている。私は男子3名と一緒に入国手続きを受けたが、入国管理官が私に話しかけるため、私ばかりが答えることとなり、結局、男子3名は英語を試す機会を失ってしまった。女子は一人ひとり入国審査を受けたため、それぞれ英語を試せたようだ。

無事、デンマークへの入国を果たし、スーツケースを受け取りに行く。筈のスーツケースがなかなか出てこない。3周程度まわった後、筈のスーツケースを発見するもベルトがない。どこかでベルトが外れてしまったようだ。



今年度は、飛行機の都合上、本日1日がフリーとなるため、コペンハーゲン市内を観光することとしている。空港内でコペンハーゲンカードを購入した。コペンハーゲンカードは、電車やバス、地下鉄、観光施設の入場料が含まれているため、市内を観光するにはお得である。コペンハーゲン空港駅から普通列車でコペンハーゲン中央駅に向かう。生徒たちにはコペンハーゲン中央駅ではスリに気をつけるよう伝えてある。リュックや手荷物は胸に抱え、コペンハーゲン中央駅をでた。

コペンハーゲン中央駅からホテルまでは徒歩での移動である。デンマークの中でも最も都会を歩く。生徒たちは早速写真を撮りまくり、自転車の多さに驚いていた。道路に自転車レーンが整備されている。日本人と思われる人は、我々以外見当たらない。街並みはきれいであるが、よく見ると道端にはタバコの吸い殻が多く捨てられている。

ホテルに到着後、荷物を預け、市内観光へ向かう。天気あまり良くなく風も強い。観光先は、生徒たちの研修テーマに沿うよう、事前に斎藤先生が計画を立てていた。

まずは、コペンハーゲン市庁舎に向かう。市庁舎自体が歴史を感じられ写真撮影スポットとなっている。市庁舎横にはアンデルセンの銅像があり、ここで記念撮影をした。生徒たちも各々写真を撮っていた。

次に、ラウンドタワーに向かう。ここは、ヨーロッパ最古の元天体観測所である。らせん状のスロープを上り屋上の展望台を目指して歩く。途中、様々な展示もあり、観光客を飽きさせないよう工夫されている。屋上からの眺望はすばらしい。デンマークに来ていることを実感できる場所である。

次は、クリスチャンスポー城に行く予定であったが、お腹がすいてきたとのことであったので、ストロイエに向かう。ヨーロッパ屈指のショッピングストリートである。ショップやカフェが建ち並び、賑やかである。生徒たちは、昼食を食べるために店員さんに英語で話していた。こうした英語を話さなければならない状況が、生徒たちの成長につながっていくものと考える。

次に、ニューハウンへ向かう。デンマークといえばここ。色とりどりの建物が並び、建物前にはお洒落なカフェもある。アンデルセンが愛した場所であり、生徒たちも写真を撮っていた。

次に、デザインミュージアムに向かう。デザインの国デンマークの近代的なデザインの変遷がわかる博物館。リュック等の手荷物は預けなければならないが、ロッカーではなく、



檻のようなところにまとめて入れることとなり、少し不安であった。



チェックインできる時間となったため、一旦、ホテルへ向かう。ここまで全て徒歩による移動であり、気づかぬうちにホテルから結構な距離となっていた。コペンハーゲンカードはバスも乗れるため、バスにてホテルまで帰ることとした。斎藤先生がスマホを使いバス停や行き先などを確認していると、優希が色々と教えてくれる。グーグル検索に詳しいらしい。頼もしい限りである。おそらく本事業で路線バス、しかも自分達で調べて乗ることは初めてのことだろう。生徒の研修テーマに「交通機関の違い」もあり、良い経験になったものと思う。

ホテルに到着後、チェックインの手続きをするが、部屋ごとに書類を書かなければならない。斎藤先生の指導の下、各部屋（男子・女子）の代表者が記入する。もちろん、全て英語である。無事、チェックインを終え、ホテルロビーでの集合時間を伝え、各々部屋へ向かう。部屋には大きなデザイン画が貼られており、その他にも照明やイス、全てがお洒落である。ホテルでもデザインの国デンマークを感じることができる。

ホテルロビーに集合し、チボリ公園に向かう。有名な公園（遊園地）であり、園内はかなり広い。コペンハーゲンカードはチボリ公園の入場料も含まれているため、生徒たちは乗り物の乗り放題チケットだけを購入した。（私と斎藤先生は入場のみ・・・）絶叫系のアトラクションも数多く有り、生徒たちはチボリ公園に来られたことを喜んでいる様子であった。集合時間を決め、自由行動とした。平日の夕方にもかかわらず、かなり混んでいた。なんと夜中の12時まで営業している。

混んでいたせいで、あまり多くのアトラクションに乗れなかったようだが、それなりに満足している様子である。ホテルまで戻る間にあるお店で晩ご飯を食べようということになり、生徒たちに「何が食べたい」と聞くと、デンマーク初日にもかかわらず、和食という答えが・・・寿司やラーメンなどを提供するお店に入店した。ラーメンの味付けは日本とは異なっていたようだ。支払いは一人ひとり行い、少しずつ外国になれてきた様子である。

夜の8時を過ぎていたが外は明るく日中のようだ。ホテルまで戻り、明日の朝食の時間を伝え、各々部屋に行った。

■ 8月11日（土） Day3

ホテルのロビーに集合し、生徒たちへ昨夜の状況を聞く。笙は、部屋に入った後、すぐに寝たようだ。皆、飛行機での長旅と市内観光で疲れていたのだろう。ホテルでゆっくり休めたので生徒たちの体調は良い。隣の朝食会場へ向かう。入口で部屋番号や人数を確認される。朝食はパンを中心としたビュッフェスタイルで美味しい。生徒たちも喜んでいる様子である。私と斎藤先生もついつい食べ過ぎてしまった。

各々、チェックアウトの準備をし、ホテルロビーで再度集合する。旅行会社が手配したアシストの方がロビーで待機していた。アシストの方から本日の列車のチケットと16日の列車のチケットをもらい、ホテルをチェックアウトし、徒歩にてコペンハーゲン中央駅に向かう。途中、コペンハーゲン中央駅や市内でのスリが多いこと、また、特に日本人が狙われやすいことを聞く。毎日のように日本人が被害にあっており、デジカメを首からぶら下げている日本人観光客は、スリに後を付けられ、写真撮影のちょっとした隙を狙われるとのこと。昨日、コペンハーゲン中央駅に着いたときに、明らかに目つきや素行がおかしい人がいたことを思い出す。あらためて、生徒たちに注意するよう促した。

コペンハーゲン中央駅からオーデンセ行きの特急列車に乗る。アシストの方とは、ここで別れとなる。生徒たちを指定席に座らせ、私と斎藤先生が交代で出入口付近に固めて置いてあるスーツケースを見張ることとした。発車後、駅員さんがチケットの確認に来た。スーツケースを座席上か座席の隙間に入れるよう指示され従う。

1時間程度でオーデンセ駅に到着し、アネと合流した。アネは、リングフリー校の教員であり、ファボー・ミッドフュン登別友好協会の会員でもある。明寿香からアネへお土産を渡し、私からも個人的に預かってきたお土産を渡した。アネは喜んでくれている様子だ。駅の外ではアネの友人がトレーラー付きの車で待機している。我々のスーツケースは、このトレーラーに載せ、後ほど向かうリング駅まで運んでくれた。



アンデルセン作の切絵

アネがアンデルセン博物館をはじめ、関連施設を案内してくれた。アンデルセンは童話だけではなく、切り絵も得意であったようで、博物館には切り絵が多く展示してある。切り絵はどれも変なポーズをしており、私が真似をしたところ、生徒たちに写真を撮られる。この後、関連する施設で変なポーズをした切り絵やグッズを見つける度、生徒たちから「団長やって～」と言われることとなった・・・

昼食は、ベーカリーショップでアネがご馳走してくれた。水は炭酸水だ。デンマークでは炭酸水がポピュラーである。

時折雨が降る中、オーデンセ市内の見学を終え、再び列車にてリング駅へ向かう。リング駅に到着後は、あっという間にホストファミリー宅へ向かうと聞いていたので、列車内で明日の予定の確認を行った。生徒たちはホストファミリーとの対面を前に緊張している様子であった。

リング駅に到着。多くの関係者に出迎えられた。花壇のような少し高いところに、一際、エネルギッシュな女性がデンマークの国旗を振っている。ファボー・ミッドフュン登別友好協会の会長リズィである。私はリズィに挨拶した後、小笠原市長からの親書を渡した。リズィをはじめ、関係者の熱烈な歓迎を受けた。聞いていたように、生徒たちはあっという間に各々のホスト宅へ向かっていった。私と斎藤先生のホストファミリーはハンスである。ハンスは2年前、斎藤先生が本事業でデンマークを訪れた際のホスト

ファミリーである。斎藤先生とハンスは、久々の再会を喜び合い、ハンスは私も快く受け入れてくれた。

ハンスの自宅に車で向かう。車はフランスのシトロエンである。ハンス曰く、ルノーの前はスズキに乗っていたとのこと。20万キロメートル程度乗ったようで、日本車は丈夫で良く走ると褒めていた。

リングの街並みは自然と住宅が調和しており、とてもきれいである。レンガの外壁とオレンジ色の屋根、地下埋設だと思いが電柱はない。信号もあまり無く、交差点はロータリーが多い。道路にはスピードを出しすぎないように、わざと段差が設けられている。

ハンス宅では、長女イダと長男マーティンが出迎えてくれた。テーブルを囲み5人会話する。と言っても、私は英語が話せないので、斎藤先生が通訳をしながらである。ハンスは話し始めると止まらない性格のようだ。

夕飯は、ハンバーガーや生野菜などでとても美味しい。デンマークでビールと言え「カールスバーグ」である。デンマーク人はビールを冷やす習慣はないと聞いていたが、ハンスは我々のために冷やしてくれている。「おもてなし」を大切にする日本人と似ていると感じた。

■ 8月12日（日） Day4

昨夜は遅くに就寝したが、午前6時前には目覚めていた。リラックスしているつもりではあったが、どこか気が張っているのだと思う。朝ご飯は、ヌードルやパンなど、どれも美味しかった。

9時過ぎにハンス宅を出て、一度、リングフリー校で集合した。生徒たちも各ホストファミリーと一緒に来ていた。生徒たちに体調を尋ねたところ、皆元気であった。ホストファミリーとも馴染んでいる様子である。



全員の集合を確認し、各ホストファミリーの車でイーエスコー城へ向かう。イーエスコー城までの道のりは田舎道だ。30分ほどでイーエスコー城に到着した。

生徒たちは、各ホストファミリーと一緒に行動した。敷地内に入るが、広いことに驚く。お城は遠くに見える。自然豊かな敷地内に本格的なアスレチックが多数ある。私も斎藤先生と綱渡りのようなアスレチックに挑戦する。高さ10メートルくらいあるのだろうか、斎藤先生が少し躊躇している様子であった。高いところがあまり得意ではないようだ。

気がつくと、生徒たちは先に進んでおり、見えなくなっていた。アスレチックのほかにも、巨大な迷路や竹馬のような遊具で遊べるスペース、歴史を感じられる自動車のミュージアムなどがある。

イーエスコー城近くの休憩場所に集合し、生徒たちは各ホストファミリーが作ってく

れたお弁当を食べている。といっても、事前研修で聞いていたとおり、日本のお弁当ではなく、サンドイッチやリンゴまるごと、ニンジンスティックなどである。昼食後、帰りの集合時間を確認し、生徒たちはホストファミリーと過ごす。私と斎藤先生は、イーエスコー城へ向かった。



動かしてはいけない人形

イーエスコー城は、登別マリパークのニクス城とそっくりだ。ニクス城がイーエスコー城を真似ているのだから当たり前であるが、どこか登別にいるような感覚になる。

城内は様々な動物のはく製や、絵画などが多数ある。また、屋根裏の人形を動かすとお城が崩れるといった言い伝えがあり、ミステリアスな一面もある。当然、観光客が触れられないようになっている。

入口付近に集合した後、生徒たちと明日の予定を確認し、各ホスト宅へ戻っていった。

私と斎藤先生はハンス宅へ戻った後、ハンスは、オーデンセのショッピングセンターに連れて行ってくれた。駐車場では日本のようにバックで駐車する人はいない。知っていたが、こんなことでも文化の違いを感じる。偶然、筈とすれ違う。ホストファミリーと一緒に買い物を楽しんでいるようだ。

ハンス宅に戻り夕食を食べた。白身魚のソテーでとても美味しい。出発前は、食事が合わなく痩せるのではないかと考えていたが、今のところデンマークで食べた物、一つを除き美味しく、むしろ、太ってきているように感じる・・・

■ 8月13日（月） Day5

各ホスト宅から徒歩や車でリングフリー校へ向かう。集合後、生徒たちに体調を尋ねたところ、食事でも美味しく体調も良好であるとのこと。私と一緒に食事での心配はいらぬようだ・・・校長先生をはじめ先生方と挨拶を交わす。校長は毎日20キロメートル程度を自転車で通勤しているとのこと、汗だくになっていた。

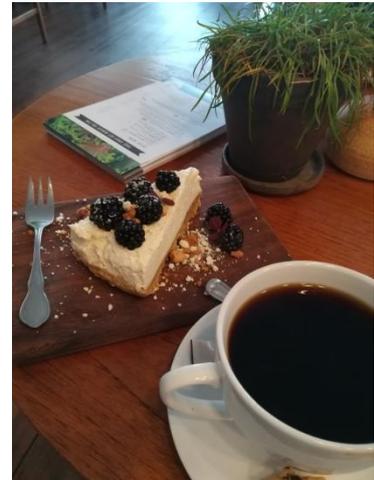
リングフリー校の全体集会に参加した後、リズィたちの案内でファボー・ミッドフュン市役所へ向かう。私はリズィの車に乗った。リズィはスズキ車に乗っており、日本車は良く走ると褒めていた。ハンスと同じことを言っている。デンマークでは日本車の評価が高いようだ。

本来、午後から市役所訪問を予定していたが、市長の都合により午前中に訪問することとなった。吹き抜けで開放感のある会議室に案内され、生徒たちにはジュースやお菓子がふるまわれた。私から市長に親書とお土産を渡し、市長からファボー・ミッドフュン市の概要説明を受ける。生徒たちからも、研修テーマに沿って質問し、市長自ら丁寧な回答をいただいた。

その後、アネの案内で市内中心部にある図書館に行った。図書館なのに子ども向けの遊び道具が置いてあったり、アートな作品が飾ってあったりと所々でデンマークらしさ

を感じる。生徒たちもリングフリー校や市役所訪問で緊張していたせいか、緊張から開放され楽しそうである。

その後、アネからの提案もあり、市内中心部でお土産などを買う自由時間とした。私と斎藤先生は、変更となった本日の予定を確認するため、アネの案内でカフェに向かう。小さな町ではあるが、街並みがきれいでお洒落である。カフェもお洒落でアート作品が多数展示している。アネがコーヒーとチーズケーキをご馳走してくれた。これまで食べたチーズケーキの中で最も美味しいと思った。斎藤先生もとても美味しいと言っている。ますます、太りそうだ・・



集合場所へ向かうと、大翔が「ラクリツ」を持っている。ラクリツとは一般的に不味いと言われているグミのようなお菓子である。大翔が皆に食べさせようとするが、アネ以外は頑なに断っている。大翔が私にも食べてと言ってきた。実は昨夜、ハンス宅にて飴状のラクリツを食べている。デンマークで食べた物で唯一、苦手な味であった。アネもいる手前、断るのは失礼と思い、平気なふりをしてラクリツを食べた。生徒たちは「よく食べられるな～」と言いたそうな表情であった。気を遣う日本人であることを再確認した出来事であった・・

その後、市内を散策しながら「森の幼稚園」に行き、生徒たちは、ホストファミリーが作ってくれたお弁当を食べ、園児と交流した。日本の幼稚園では考えられないが、折れた木の枝が砂場に置いてあった。危ないのではと聞いてみたところ、今年のクリスマスに使用した木であると言って笑っていた。明確な回答ではなかったが、危険な物を全て除去するのではなく、園内にも危険があることを教えているのかもしれない。そう言えば、ハンスはボーイスカウトの指導者としても活躍している。イダもマーティンもボーイスカウトに入って活動している。リングの町には、年齢別のボーイスカウトチームがあり、地域全体として野外での活動が盛んである。このような地域特性と関連があるのかもしれないと思った。

幼稚園に各ホストファミリーが車で迎えに来た。生徒たちはホスト宅へと帰っていった。予定していたリングフリー校での交流や老人ホームへの訪問がなくなったため、若干早めの帰宅となったが、16時にサッカー場に再度集合し、ホストファミリーと一緒にサッカーをすることとした。

私と斎藤先生は、徒歩にてハンス宅まで帰ることとした。歩きながらリングの町を見渡すと一軒家が多いことに気づく。キャンピングカーやトレーラー、屋外トランポリンなどもある。コペンハーゲンとは異なる優雅でどかな風景が広がっている。

サッカー場に集合し、ホストファミリーの子どもたちと一緒にサッカーをする。私と斎藤先生、ハンスも参加し楽しんだ。サッカーの後は、サッカーボールでバスケットボールも楽しんだ。大翔が生き生きとしている。

スポーツを通じてホストファミリーとの交流もさらに深まり、結果として予定が変更となり良かった。

■ 8月14日（火） Day6



リングフリー校で集合後、生徒たちの体調を確認する。ホストファミリーとも慣れてきた感じで体調も良好のようである。

7学年の生徒たちと一緒に貸切バスに乗り込み、レゴランドへ向かう。渋滞もなく順調で、ひたすら、平坦な道路を走行している。以前、私がホストファミリーとしてデンマーク人を受け入れた際、デンマークには山がないと聞いていたことを思い出す。通勤や通学に自転車を利用する人が多いのは、このような特徴もあるのかもしれない。

レゴランドに到着し、入口前で集合写真を撮る。平日にもかかわらず、かなり混んでいる。生徒たちはホストファミリーと一緒に行動する。英語でのコミュニケーションも何とかとれているようだ。私たちは引率の先生と電話番号を交換し、何かあった場合はお互いに連絡することとした。

斎藤先生が2年前にレゴランドに行った際は、アトラクションに乗らなかったとのこと。乗らなかったことをハンスやイダに不思議がられたようだ。2年前は、当時の団長とともに、レゴランド内のお店でコーヒーを飲んだりしていたそうだ。

レゴランド内は広く、子供から大人まで楽しめるようになっている。レゴランド内の中央では、世界の街並みをレゴを使って表現しており圧巻である。

私と斎藤先生は、アトラクションに乗ることとした。お化け屋敷で最後にフリーフォールに乗るアトラクションである。途中で優美香と明寿香、そのホストファミリーに会う。こちらに気づいていないようだ。偶然、フリーフォールが一緒であった。フリーフォールに乗っている間、優美香は終始笑顔であった。優美香はいつも笑顔で団のムードメーカーである。明寿香は目を閉じて怖がっていたようであった。そういう私も乗り物はあまり得意ではない・正直、恐ろしかった。チボリ公園もそうであるが、デンマークのアトラクションは絶叫系が多いように感じる。

喉が渴いたので自動販売機でコーラを買った。自動販売機は現金も使えるが、クレジットカードも使えるようになっている。通路上に出店しているお店でもクレジットカードが使える、国全体としてキャッシュレスが進んでいるようだ。

生徒たちは多くのアトラクションに乗り、お土産も買い満足している様子だ。帰りのバスに乗り、リングに向かう。行きとは異なり渋滞している。高速道路で事故があったようだ。予定より1時間程度遅れてリングに到着した。明日は練習してきたプレゼンと特技の披露である。到着後、明日の予定を確認し、各ホスト宅へと帰っていった。

■ 8月15日（水） Day7

リングフリー校で集合後、生徒たちの体調を確認する。ホスト宅でのご飯が美味しいとのことで、絶好調のようである。

朝の集会に参加し、全校生徒と先生にプレゼンを披露した。パワーポイントも問題なく生徒たちの英語もスムーズだ。その後、歌2曲を披露した。CDプレーヤーがなく、パソコンにアンプ・スピーカーを接続して音楽を再生した。

予定が変更となり、午前中にノーアエア校へ訪問することとなった。7学年生徒の案内で徒歩で移動した。ノーアエア校では、生徒たちはインターナショナルクラスの生徒たちとグループ毎に校内を見学した。私と斎藤先生は、ノーアエア校の教員の案内で校内を見学、途中、音楽の授業を見学した際、突然の見学にもかかわらず、小学3年生の生徒による楽器を使った生演奏を披露していただいた。とても上手であった。

12時にリングフリー校に戻り、生徒たちはホストファミリーと一緒に昼食を食べ、午後からの選択授業に生徒たちも参加することとなった。春花と明寿香は体操、優美香は音楽、優希は料理、大翔と笙はスポーツだ。私と斎藤先生は順番に各授業の教室に向かい見学、どれも楽しそうである。



授業終了後、各ホスト宅へ帰り、18時に再度、リングフリー校に集合し「お別れパーティー」である。パーティーでは、各ホストファミリーが作った料理を皆で食べることとなる。私と斎藤先生は、パーティーで料理を振る舞うため、昨日、買い物をしてきた。日本的でありすぎる料理と考え「お好み焼き」を作ることとした。イダにも手伝ってもらい、お好み焼きを作る。ブルドックソースやオタフクソースが売っていなかったため、テリヤキソースで代用する。少し違う味がするものの許容範囲である。

ハンス、イダ、マーティンとともにリングフリー校へ向かう。既に多くの人が集まっている。大きなテーブルの上に料理を並べ、パーティーが始まる。我々が作った「お好み焼き」の売れ行きが心配だ。特に斎藤先生は2年前、「肉じゃが」を作ったが、大量に余ったという経験があり、心配している。結果は完食、評判も良かった。

パーティーが終盤にさしかかったところで、特技披露のリハーサルのため生徒たちと音楽室へ向かう。特に春花と明寿香は緊張している様子である。私は少しでも緊張を和らげようと、へたくそなドラムを叩くが、生徒たちから「団長うるさい」と注意される・・・

パーティー会場へ戻るとアネがこの後の説明をしていた。パーティー会場を皆で片付け、音楽室へ向かう。いよいよ特技の披露だ。

明寿香の英語での司会から始まり、春花のフルート演奏である。すばらしい音色で会場全体が静まりかえる。演奏後は大きな拍手を送られた。皆、聞き入っていたようだ。

次は、明寿香のピアノ演奏である。斎藤先生から明寿香の腕前は相当なもの聞いて

いた。大舞台で演奏慣れしているのであろう、表情まで本格的だ。後でハンスが言っていたが、リングエの町で明寿香のようなピアノ演奏をできる人はいないとのことである。それだけ上手であった。

次は、男子3人によるマジックショーである。斎藤先生がマジックでお馴染みの曲「オリーブの首飾り」を流す。これまでとは雰囲気が一気に変わる。大翔、笙、優希それぞれがマジックを披露し、笑いと驚き、最後は拍手喝采であった。

全体を通して予想以上の盛り上がりで特技披露が終了した。その後、全員で「鬼踊り」を踊る。私のかけ声とともに、全員が輪になって踊り出した。少し照れくさかったが、皆、楽しそうで良かった。

生徒たちとホストファミリーの仲が日に日に良くなっており、私としては、明日の朝のリングエ駅でのお別れが少し心配であった。(号泣するのではないかと・・・)

■ 8月16日(木) Day8



各ホスト宅から車でリングエ駅に集合する。いつものように体調を確認するが、体調は良好であるものの、どことなく寂しそうだ。皆で駅のホームに向かう。デンマークの列車は改札がなく、駅員にチケット提示を求められたときに見せるシステムである。このため、チケットを持っていない人もホームに入れる。ホームでは、ホストファミリー毎に最後のお別れをしている。一部、泣いている生徒もいる。私も斎藤先生とともにハンス一家とお別れの挨拶を交わす。列車がリングエ駅に到着し、生徒たちとともに乗り込む。ホストファミリーは我々が見えなくなるまで笑顔で手を振ってくれていた。

列車はすぐにオーデンセ駅に到着する。乗換列車までの時間が少ないため、生徒たちには急ぐよう伝えてある。乗換列車はコペンハーゲン中央駅行きの特急列車である。斎藤先生が駅員に列車を確認し乗り込む。指定席であるため、座席に向かうも既に誰かが座っていた。斎藤先生がチケットを見せ話すも、相手もチケットを持っている。再度、駅員に確認したところ、我々の乗る予定の列車は既に発車しており、違う列車に乗ってしまった。だが、この列車もコペンハーゲン中央駅まで行くとのこと。駅員から、空いている席に座って良いと言われたので、バラバラではあるが生徒たちを座らせ、私と斎藤先生は出入口付近でスーツケースを見張ることとした。これまで、アクシデントやハプニングがなく順調に進んでいたが・・・

1時間30分ほどでコペンハーゲン中央駅に到着した。予定より若干到着が遅れたが、ホテルで待ち合わせしているヤエスには遅れる旨連絡をしていた。ヤエスは、本日の行程をサポートしてくれるデンマーク人で、ファボー・ミッドフュン登別友好協会の会員から紹介いただいた方である。コペンハーゲン中央駅到着後、生徒たちにはスリに気を

つけるよう伝え、徒歩にてホテルに向かう。

ホテルロビーにてヤエスと合流した。笑顔の素敵青年である。チェックインの時間前ではあったが、部屋の準備ができていたようで、チェックインできることとなった。部屋にスーツケースを置き、ホテルロビーで集合したが、男子、女子ともに部屋にベッドが2つしかないとのこと。ハプニング2連続である。

斎藤先生がホテルと交渉するも、ベッドを増やすには追加料金が必要と言われた。早速、ヤエスが活躍することとなる。ヤエスが斎藤先生に代わってホテル側と交渉してくれ、追加料金なしでベッドを増やしてもらえらることとなった。斎藤先生曰く、ヤエスが来たたんホテル側の対応が良くなったとのこと。

この後は、デンマークナショナルチームが練習するスポーツ施設の見学である。駐日デンマーク大使であるフレディ・スヴェイネ大使の協力により実現したものである。ホテル近くのケバフ料理のお店で昼食を食べ、ホテル前にて予約してあるタクシーを待つ。しかし、待ってもタクシーが来ない。まさかのハプニング3連続である。

ヤエスが連絡してくれるとのことで、私はタクシー会社の連絡先が記載された予約票を探していた。その間に、ヤエスが目の前に止まっていたバスの運転手と何かを話している。ヤエスが笑いながら戻ってきて「これが予約していたタクシーだ」と言っている。デンマークでは、大型バスのことをタクシーと言うらしい。3回目のハプニングは大爆笑であった。ちなみに、このタクシーは我々がホテルに到着した時点から駐車してあった。60人は乗れると思われるバスに9人で乗り込む。車で僅か30分程度しかかからないスポーツ施設まで、大型バスで、しかも9人で乗り込んだことで、ホテルの従業員も笑っていた。



スポーツ施設に到着後、担当者が施設内を案内してくれた。トレーニングルームではナショナルチームが練習に励んでいた。サッカー場も案内してくれたが、残念ながら先のワールドカップでも活躍したエリクセンはいなかった。

ホテルに到着後、生徒たちには、一旦部屋で休憩してもらい、明日の列車のチケットを購入するため、私と斎藤先生、ヤエスの3人でコペンハーゲン中央駅に向かった。途中、ヤエスがデンマーク人はタバコを道端に捨てる習慣があると言っていた。デンマーク初日に気づいたことの原因がわかった。

ヤエス協力のもと、発券機にてコペンハーゲン中央駅からコペンハーゲン空港駅までのチケットを購入する。日本とは違い、列車に乗る時間帯も入力することとなる。チケット購入方法は次年度以降も参考となるようビデオ撮影した。ヤエスにお礼を言い別れた。

本日の予定は全て終えている。ホテルに戻り、生徒たちに何がしたいか尋ねたところ、男子は、再びチボリ公園に行きたいと言うので、私が同行することとした。女子は、少し疲れているようで、とりあえずホテルで休むとのことであった。念のため、斎藤先生

が使っているポケットWiFiを春花に渡し、何かあった際は私に連絡するよう伝えた。春花にポケットWiFiを渡したのは、最年長かつ落ち着いていて頼りになるからである。斎藤先生には、今後の授業において何かの参考となるよう、市内を自由に見学してもらうこととした。



斎藤先生がいない中、デンマークで行動するのは初めてとなる。早速、つたない英語でチボリ公園のチケットを購入する。チケットの種類があるため難しいが、何とか購入できた。男子には集合時間を伝え自由行動とした。男子は乗り物やゲームを楽しんだようであるが、どことなく寂しそうであった。

チボリ公園を出て斎藤先生とも合流した。夕飯はコペンハーゲン中央駅内のコンビニで買い、ホテルで食べることにした。女子からは連絡があり、既に夕食を買ってホテルで休んでいるとのことであった。

帰り道に大翔と笙が話していた。「ホテルに泊まるんだったら、もう一泊ホスト宅に泊まりたかったな〜」生徒たちにとってホストファミリーと過ごす時間が本当に楽しかったのであろう。団長として、とても嬉しい一言であった。

■ 8月17日（金） Day9

ホテルのロビーに集合する。生徒たちは最後まで体調は良好であった。美味しい朝食を食べ、各々チェックアウトの準備をする。ホテルをチェックアウトし、徒歩にてコペンハーゲン中央駅へ向かい、昨日、購入したチケットでコペンハーゲン空港駅行きの列車に乗る。

コペンハーゲン空港に到着後、チェックインをしようと案内板を見るも、チェックインカウンターの番号表示がない。若干、早すぎたようだ。しばらくすると、案内板に番号が表示されたため、チェックインカウンターへ向かう。生徒たちは、チェックインにドキドキしているようだ。英語を使うドキドキではなく、座席がビジネスかどうかだ。結果はエコノミー、当然である。

チェックインを済ませた後、空港内のお店でお土産を購入する時間を取った。集合後、出国手続きを行い、出発ゲートにて待機、CX246便にて香港空港へ向かった。

■ 8月18日（土） Day10

約11時間の飛行で早朝に香港空港に到着した。ハブ空港だからであろう、早朝にもかかわらず人が多い。乗換時間が少ないため、生徒たちには急ぐよう伝えてある。行きは飛行機も香港空港での乗り換えであったため、迷うことなくスムーズに行動できている。ただ、今回は出発ゲートまで遠かったため、空港内の電車に乗ることになった。無事、CX582便で新千歳空港に向かった。もちろんエコノミーである。

約5時間の飛行で14時に新千歳空港に到着した。到着後、入国手続きをする。私が先頭で次に生徒たち、最後に斎藤先生といった順番で手続きを行う。私は、入国手続きを終え、8名全員が無事に帰国できたことに安堵していた。が、まだ終わってはいなかった・・・

生徒たちが次々に入国手続きを終え出てくる。しかし、優希と斎藤先生が出てこない。こちらは、既に入国しているため、入国前の様子がうかがえない。しばらくすると、斎藤先生から優希のパスポートと財布がないため入国できないとの連絡が入る。これから、キャセイパシフィック航空の職員が飛行機内を探してくれるとのことで、入国組は、しばらく待機することとした。香港空港の出発ゲートでパスポートを見せているので、パスポートをどこかに落としてしまったのであれば、飛行機内もしくは、飛行機を降りてから入国手続きまでのわずかな間しか考えられない。私は、すぐに、新千歳空港で待っている市担当職員に事情を伝え、待機してもらうこととした。

しばらくすると、斎藤先生から飛行機内でパスポートと財布が見つかったとの連絡が入る。その後、二人は苦笑いしながら無事入国した。

結果的には大きな事故や怪我もなく終えることができた。昨年度、本事業に参加した団員が、デンマークで降りる駅を間違ってしまったことを楽しそうに話していたことを思い出す。我々もハプニングやこのような出来事が後々良い思い出となるのだと思う。



空港内で待機している市担当職員と合流した後、デンマーククローネを円に両替する。バスに乗り込み登別に向かう。市役所では保護者や学校関係者、市職員に出迎えていただいた。久々に会う保護者と照れくさそうに話している生徒たちの姿が印象的であった。

■派遣交流事業を終えて

団長としての役割や責任の重さに加え、2020年東京オリンピック・パラリンピックにおけるデンマーク王国のホストタウンとして、登別市をPRするとともに、現地の方々と交流を深めるといった自身としての任務もあったものの、多くの方のサポートを受け、何とか無事終えることができた。特に、引率教員として私や生徒たちをサポートしてくれた斎藤先生の力は大変大きく、あらためて、感謝申し上げたい。持ち前の英語力で積極的に通訳していただく姿は頼もしい限りであり、その姿は、生徒たちにも良い影響を与えているものと思う。

生徒たちは、今回の派遣交流事業に当たり、楽しみの反面、不安も大きかったものと思うが、派遣交流事業を終え、「もっと英語を話せるようになりたい」「将来、ホストファミリーと再会したい」などと話しており、短期間にもかかわらず成長した様子が見受けられる。言葉が通じなくても、ある程度のコミュニケーションは図れるが、共通の言

語を使ってコミュニケーションを図る方が、仲良くなれる（お互いを理解できる）近道だと考える。

グローバル化が進む国際社会において、未来を担う生徒たちには、今回の派遣交流事業を契機として、さらなる国際理解や国際交流を図るべく、語学等の勉強を頑張ってほしいと願う。私自身もまずは、2020年にデンマークの方々が登別市を訪れていただいた際に、「おもてなし」の気持ちがより伝わるよう英語を勉強していきたいと思う。

最後に、あらためて、「登別市デンマーク友好都市中学生派遣交流事業」の有効性を感じたところであり、生徒たちの成長の一過程に関われたことは大変嬉しいことであった。派遣交流事業に関わる全ての方に感謝申し上げ、経過報告のまとめとしたい。

Mange Tak !

異文化を体験するということ

登別市立西陵中学校 斎藤 智弥

「僕たちは、都市ビルの中にいるからなかなか気がつかないけど、由紀夫君は若い頃に世界のあちこちへ行っていたから、日本の中にいたら気がつかないことがいっぱい見えているんだろうね。なんだか羨ましいような気がするな。」

これは椎名誠さんという作家の『アイスプラネット』という物語の一節である。中学校2年生の教科書にも掲載されている物語なので、たくさんの中学生がこの物語を知っていると思う。

東京とはまた違った大都市、コペンハーゲンの美しい街並み。歴史が息づくアンデルセンの物語、見渡すかぎり山々のない平坦な景色が広がり、そこで穏やかで温かな暮らしを営むリングゲの人々。今回のデンマーク派遣を通して、団員たちは何を感じただろうか。

私自身海外の国を訪れた際にいつも感じることは、憧れの地に足を踏み入れることができた高揚感と、いくらその憧れに近づこうと真似をしても、どこまでも自分は日本人なのだという少し寂しさにも似たような感情である。デンマークは、国際連合が2012年から発表している世界幸福度報告(World Happiness Report)では3度1位になったことがある。また、「hygge (ヒュッゲ)」と呼ばれる、くつろげる心地よい時間、またはそのような時間を作り出すことによって自然と生まれる幸福感や充実感を表す言葉がある。本当に、素晴らしい国である。団員たちはこのようなデンマークの素晴らしさを肌で感じ、海外の国々への憧れをさらに強くしたのではないだろうか。それと同時に、自分たちが生まれ育ってきた日本という国を改めて見つめ直す機会にもなったと思う。もしかすると、「日本もデンマークのように～をしたらいいのに」や、「デンマークに住みたい!」と感じた団員もいるかもしれない。海外の文化に触れたことで、世界を見る視点が増えたことであろう。ぜひ団員たちにはこの経験を、これからの人生をより豊かなものとするための糧としてほしいと思う。世界にはまだまだ多くの国があり、たくさんの人々がいる。それらにもっと興味を持って、たくさんの経験を積んで、世界を見る視点をどんどん増やしてほしいと思う。異文化を体験するということは、自らが現在持っている幸福感や倫理観等の様々な感情を一度整理し直し、新たな何かを加えてアップデートすることなのだと思う。中学生という自分自身を形成する過程として非常に重要な時期に、今回のような体験をした皆さんと、またいつか会えることを心から楽しみにしている。

最後に、このような貴重な体験を私に二度もさせてくださった小笠原春一市長、武田博教育長を始め、事前・事後研修において多大なご尽力をしてくださ

った企画調整グループの方々，そして，私を含め団員に家族のように温かく接して下さった大澤団長に深く感謝を申し上げたい。縁あって一緒に貴重な体験を共有できた団員たちに，もう一つ冒頭の物語からの一節を送り，結びとしたい。皆さんの人生が，リングの街のように愛情溢れるものになることを願って。

－「世界は，楽しいこと，悲しいこと，美しいことで満ち満ちている。誰もが一生懸命生きている。それこそありえないほどだ。それを自分の目で確かめてほしいんだ。」－

帰国報告会資料 (派遣生徒)

帰国報告会



平成30年度デンマーク友好都市中学生派遣交流事業

登別市立緑陽中学校3年の、鈴木春花です。

これから、私たち6人がデンマークで調べてきた、それぞれの「研修テーマ」について発表します。●

デンマークの建物について



登別市立緑陽中学校3年 鈴木春花

わたしは、「デンマークの建物」について調べてきました。
日本と違うところをいろいろ発見したので、ご紹介します。



デンマークの建物について



これらは、デンマークの街並です。

1日目、コペンハーゲンに到着して、街へ出ると、日本とは全く異なるデザインの建物に目をうばわれました。自分の持つヨーロッパのステキなイメージそのものの、建物ばかりでした。レンガ造りの建物も多く、青空に映える様子は、まるで夢の中にいるようでした。



デンマークの建物について



初日から、日本と違う街並みに圧倒されつつも、斎藤先生の考えてくれたコースで、コペンハーゲン市内の見学をし、最後にチボリ公園へ行きました。チボリ公園の入口も、このように、レンガ造りのすてきな建物でした。



デンマークの建物について



ここは、「ニューハウン」という、デンマークの著名人アンデルセンが愛したと言われる港町です。実際に行ってみると、ご覧のように、となり同士くっついていて、平面的な建物ばかりでした。

(少し、間をおいて...みなさんに見てもらってから)



デンマークの建物について



これは、「ラウンドタワー」という、17世紀半ばに、天体観測所として建てられた塔です。

この塔は、よくある階段ではなく、

●ゆるやかなスロープをグルグルと登っていきます。

(少し、間をおいて...みなさんに見てもらってから)

●

これは、そのラウンドタワーのてっぺんからの眺めです。

ここに登るとコペンハーゲンの街並を一望することができました。

どの建物も、同じような形をしていたり、屋根が同じ色だったりして、その統一感に感動しました。

ラウンドタワーはとても高いので、遠くまで見渡すことができます。

●

デンマークの建物について



そして、これは、マリパーク・ニクス城のモデルとなったイーエスコー城です。

(少し、間をおいて...みなさんに見てもらってから)



このように、敷地がとても広くて、遊具やお店などが、城へ行く途中にありました。

(少し、間をおいて...みなさんに見てもらってから)



デンマークの建物について



実際の城の中は、とてもきれいで、このように、動物の剥製などを、たくさん飾ってある部屋もありました。

ここが、本当に城として使われていたんだと実感しました。

(少し、間をおいて...みなさんに見てもらってから)



デンマークの建物について



デンマークの建物の外観は、色とりどりで、きれいなものばかりでした。レンガ造りの家も多く、とてもすてきな建物がたくさんありました。

(少し、間をおいて...みなさんに見てもらってから)



デンマークの建物について



これは研修テーマとは関係ありませんが、仲良くなったホスト達が、リング駅で私たちを見送ってくれた時の写真で、とても気に入っています。みんなとの友情を、ずっと忘れずにいたいと思い、載せました。



「デンマークの建物」は、



レンガや石造りで、
屋根なども同じような色
で統一感があり、とても
きれいな街並みを作り出
していました。

また、ヨーロッパらしく、
長い歴史を感じられまし
た。

私が見て、感じた「デンマークの建物」は、レンガや石造りで、とてもヨーロッパらしかったです。丈夫そうで、何百年も持ってきたと思われる建物から、長い歴史も感じました。

(少し、間をおいて...みなさんに見てもらってから)

これで、私の発表を終わります。
次は、やまね ひろと 君 の発表です。



デンマークのスポーツについて



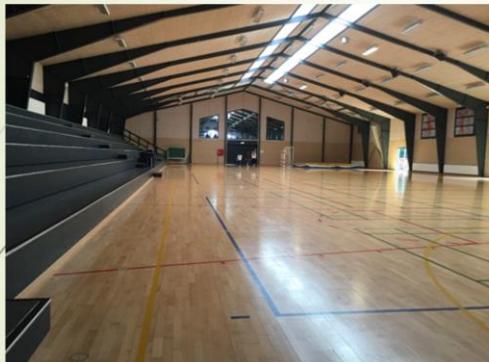
登別市立緑陽中学校 1年 山根 大翔

登別市立緑陽中学校1年、山根大翔です。

僕は、「デンマークのスポーツ」をテーマにして、この目でいろいろ見てきました。



デンマークのスポーツについて



リングフリー校には、
目的別に、違う体育館が
ありました。



これは、リングフリー校にあったボールを使って遊べる体育館と、トランポリンのある体育館です。体育館に入る時に、靴を脱いでいる人と脱いでいない人がいて、その自由な感じに驚きました。

(少し、間をおいて...みなさんに見てもらってから)



デンマークのスポーツについて



僕は、選択授業の時に、この体育館でドッチボールのような球技をしました。
日本のドッチボールとは、ルールが違いました。

(少し、間をおいて...みなさんに見てもらってから)



デンマークのスポーツについて



これは、ノーアエア校の体育館の写真です。ここには、ブランコのようなものと、ろくぼくがありました。

(少し、間をおいて...みなさんに見てもらってから)



デンマークのスポーツについて



僕たちがホームステイをしたリングゲには、スポーツジムがありました。屋内にはバスケットボールなどができる体育館、屋外には土のテニスコートがありました。

(少し、間をおいて...みなさんに見てもらってから)



デンマークのスポーツについて



この写真は、コペンハーゲンで訪問したスポーツ施設です。デンマークのオリンピック委員会も入っているこの場所は、オリンピックに出場するような一流の選手達がトレーニングをするところです。宿泊施設もあり、まるでひとつの街のようでした。

(少し、間をおいて...みなさんに見てもらってから)



デンマークのスポーツについて



建物の中には、歴代の有名選手の像がいたるところに置かれていました。

(少し、間をおいて...みなさんに見てもらってから)



デンマークのスポーツについて



ここには、いろいろな施設が集まっていて、これは、実際に試合が行われたバドミントンコートです。

(少し、間をおいて...みなさんに見てもらってから)



デンマークのスポーツについて



ここは、一流選手しか使えないジムで、僕たちが訪問した時は、実際に、数名の選手たちがトレーニングをしていました。

(少し、間をおいて...みなさんに見てもらってから)



デンマークのスポーツについて



これは、球技トレーニング用の体育館です。

(少し、間をおいて...みなさんに見てもらってから)



デンマークのスポーツについて



また、このように、卓球台がたくさん置かれた専用の体育館も見せてもらいました。

(少し、間をおいて...みなさんに見てもらってから)



デンマークのスポーツについて



これは、デンマーク代表の選手達が練習するサッカー場です。

(少し、間をおいて...みなさんに見てもらってから)



デンマークのスポーツについて



今、見ていただいたように、すごくたくさんの種類の施設が集まっていました。自分の身近に、このような場所は無いので、とても驚きました。

(少し、間をおいて...みなさんに見てもらってから)



「デンマークのスポーツ」は、



とにかく

**「施設が充実
している」**

という印象でした。

僕が見てきた「デンマークのスポーツ」は、オリンピック施設はもちろんのこと、学校でも、そして家でも、とにかく施設がとても充実していた、ということです。

(～～ひと呼吸～～)

これで、僕の発表を終わります。
次は、いしやま あすか さんの発表です。



デンマークの音楽について



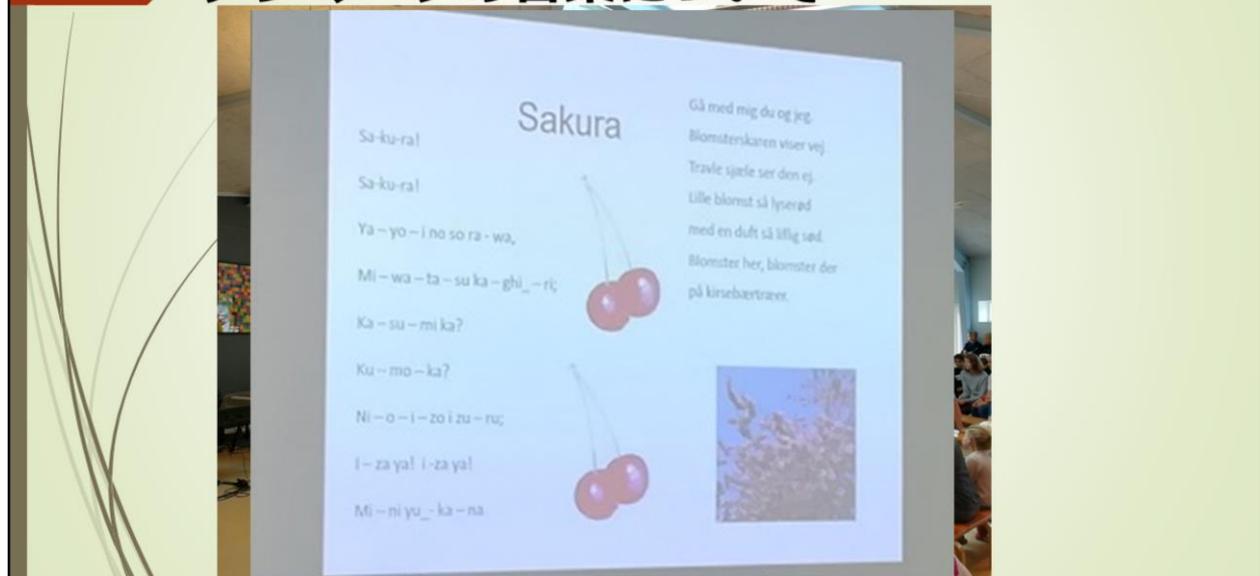
登別市立西陵中学校2年 石山 明寿香

登別市立西陵中学校2年、石山明寿香です。

わたしは、「デンマークの音楽」をテーマに、いろいろ調べてきました。



デンマークの音楽について



まず、学校での「朝の会」についてです。

日本の学校の「朝の会」は、各クラスで、あいさつや欠席者の確認をして、一日の目標を決めたり、連絡事項を聞いたりするのが普通だと思います。一方、リンゲフリー校の「朝の会」は、音楽ホールに全校生徒が集まって、行われていました。

この日は、最初に、3曲ほど歌を歌いました。

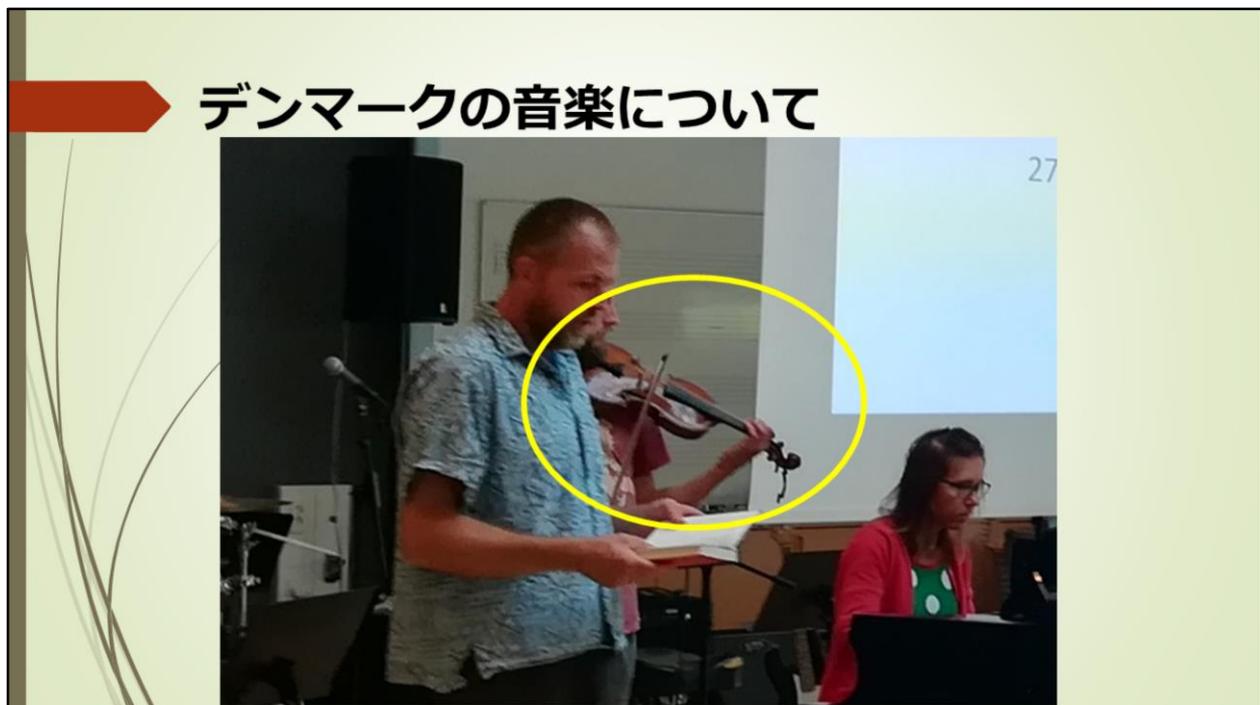


その中には「さくら、さくら」もありました。

日本語で歌ってくれて、とても嬉しかったです。



デンマークの音楽について



歌の伴奏は、日本ではピアノかCDですが



リンゲフリー校では、このように、ヴァイオリンを弾く先生もいました。

(少し、間をおいて...みなさんに見てもらってから)



デンマークの音楽について



音楽ホールは、きれいに装飾されていて、とても美しかったです。それを見て、私も楽しい気持ちになりました。また、生徒みんなが、大きな声で歌を歌っていたのが、とても印象的でした。

(少し、間をおいて...みなさんに見てもらってから)



デンマークの音楽について



この写真は、リンゲフリー校の音楽ホールで、ピアノの練習をした時のひとコマです。

音楽ホールには、このグランドピアノの他にもドラムセットやギターなどいろいろな楽器がありました。

また、ホストファミリーの家にもピアノがありました。私がピアノを弾くと、家族みんなが喜んでくれて、とても幸せな時間を過ごしました。



デンマークの音楽について



ホームステイ最後の夜のお別れパーティで、私はピアノを、春花さんはフルートを演奏しました。

左の写真がわたし、右の写真が春花さんです。ホストのみんなは、真剣に聞き入ってくれていました。

(少し、間をおいて...みなさんに見てもらってから)

ピアノを弾いた時の様子を動画で少しだけご覧ください。



デンマークの音楽について



こんな感じでした。

日本で演奏すると、みんな「すごいね」とほめてくれますが、それは基本的に指の動きなどについてです。しかし、デンマークの人たちは、「芸術的で感動した。」などとほめてくれました。

喜び方も、ただの拍手ではなく、とても大きな拍手を、笑顔でしてくれるので、嬉しかったです。

私の音楽を理解してくれるひとが、この国にはたくさんいると感じて、デンマークが大好きになりました。



デンマークの音楽について



次に、デンマークの人たちに人気のあるミュージシャンを紹介します。

それは、「ルーカス・グラハム」というグループです。代表作に「7 Years」という曲があります。歌詞にとっても重みがあって、良い歌だと思いました。この曲は、アメリカのビルボード誌の、シングルチャートで2位になり、また、グラミー賞にもノミネートされたほど、人気があります。



デンマークの音楽について



カール・ニールセン

1865年デンマークの
ノーレ・リュンデルセ生まれ



今は、リングと同様、合併して
ファボー・ミッドフュン市の
一部になっています。

また、私たちがホームステイをしたファボー・ミッドフュン出身の有名なクラシックの作曲家がいます。それは「カール・ニールセン」という人です。

ノーレ・リュンデルセ生まれと書いてありますが



この町は、今のリング同様、合併をしてファボー・ミッドフュン市に含まれています。リングの人たちは、自分たちと同じ町出身の彼をととても誇りに思っているそうです。



「デンマークの音楽」は、



日本よりも身近にある印象でした。

学校においてある楽器の種類も豊富で、気軽に触れることができました。

私にとって、「デンマークの音楽」は、日本よりもずっと身近な印象でした。街中に楽器があったり、音楽ホールには楽器がたくさんあって、気軽に触れることができました。

私のピアノに対しても、とても理解を示してくれるデンマークの人たちが私は大好きになりました。
またいつか、デンマークでピアノを弾きたいです。

(～～ひと呼吸～～)

これで、私の発表を終わります。
次は、わだ あきら くん の発表です。



デンマークの子供の遊び



北海道登別明日中等教育学校 1 回生 和田 笙

北海道登別明日中等教育学校1回生、和田笙です。

僕は「デンマークの子供の遊び」について、調べてきました。



デンマークの子供の遊び



デンマークの家にはゲームがたくさんありました。ホストの家には「マリオ」がありました。今は「フォートナイト」というゲームがはやっているようで、ホストも持っていました。

(少し、間をおいて...みなさんに見てもらってから)



デンマークの子供の遊び



最近はやっている遊びで、「ディアボロ」というのがありました。
これは、ジャグリングの一種で、



右の図のような、おわんを2個くっつけたような形のコマを、2本の棒につないだ糸でくるくる回す遊びです。

僕も挑戦してみましたが、なかなか難しかったです。7年生の子は、上手に回していました。



デンマークの子供の遊び



リングでは、森の幼稚園というところも訪問しました。そこでは小さな子どもたちが、自然の中でいろいろなことをして遊んでいました。僕たちも仲間に入って遊びました。言葉は通じないけれど、みんな一緒に楽しく遊ぶことができました。



団長も、小さい子たちに取り囲まれ、おもちゃの剣で切られていました。

(少し、間をおいて...みなさんに見てもらってから)



デンマークの子供の遊び



そして、デンマークでは、家にも学校にもトランポリンがありました。これは、リングエフリー校にある体操用の体育館の様子です。

小さいトランポリンではなく、本格的な大きいトランポリンが床に作られていて、ビックリしました。



ホストの生徒たちはみんな慣れていて、こんなふうには、ピョンピョン飛び跳ねていました。

(少し、間をおいて...みなさんに見てもらってから)



デンマークの子供の遊び



これは、他の子の家にあったトランポリンの写真ですが、僕も自分のホストの家の庭にあったトランポリンで遊ばせてもらったら、すごく跳ねて、面白かったです。

(少し、間をおいて...みなさんに見てもらってから)



デンマークの子供の遊び



また、学校の中にはビリヤードや卓球の台がありました。休み時間にみんなで遊んでいました。



その他にも、日本の学校には無い遊具がたくさんありました。

(少し、間をおいて...みなさんに見てもらってから)



デンマークの子供の遊び



また、デンマークではサッカーがとても人気です。学校には大きなサッカー場がありました。家の庭にもサッカー場がありました。ボールがあれば、どこでも出来るのが人気の理由だそうです。



「デンマークの子供の遊び」は、



みんなをつなげてくれる

「言葉のかわり」

だと思いました。

「デンマークの子供の遊び」は、とにかく楽しむ、というところは日本と全く同じでした。

ゲームで対戦したり、みんなで1つのボールを追いかけてたりして、とてもにぎやかで楽しかったです。

「遊び」は、みんなをつなげてくれる、「言葉のかわり」だと思いました。

言葉は通じなくても、みんな一緒に遊ぶことで、仲良くなれるということを実感できました。

(～～ひと呼吸～～)

これで、僕の発表を終わります。

次は、むらもと ゆうき くん の発表です。



日本とデンマークの交通機関の違い



登別市立幌別中学校 1年 村元 優希

登別市立幌別中学校1年、村元優希です。

僕は、「日本とデンマークの交通機関の違い」について、いろいろ見てきました。



日本とデンマークの交通機関の違い



まず1つ目は、デンマークの電車やその関連施設です。
その中でも2つ紹介します。

まず、「デンマークの電車」についてです。
デンマークの電車の形は、左の写真のように日本と比べて丸い形をしています。
そして、どの電車にも上に電光掲示板があります。
さらに、右の写真にあるように、電車に自転車を乗せることができ、便利です。

(少し、間をおいて...みなさんに見てもらってから)



日本とデンマークの交通機関の違い

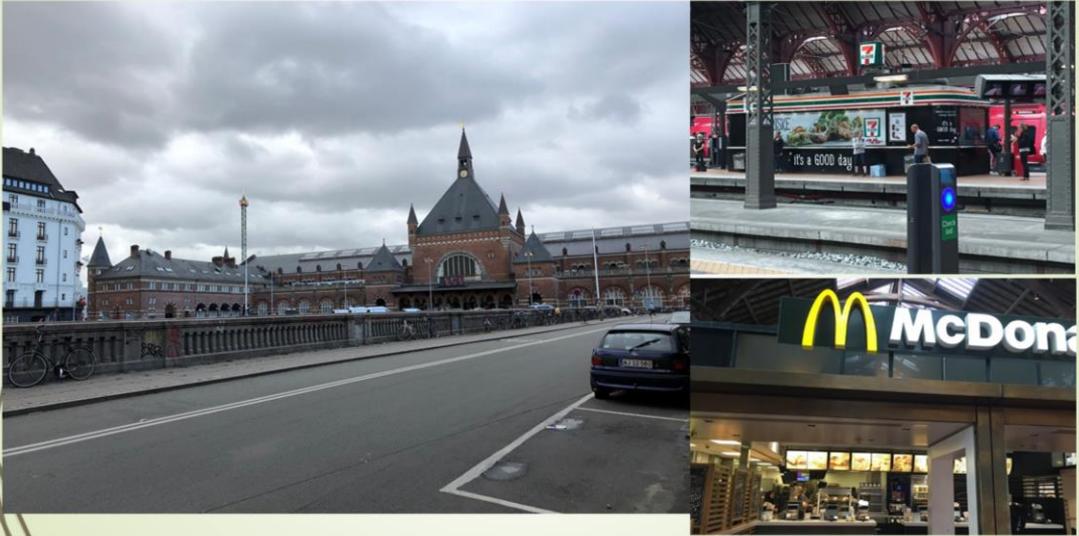


また、ほとんどの電車で、このように落書きがされています。
日本で、こういう落書きは犯罪にあたりますが、外国ではアートなのでしょうか。

(少し、間をおいて...みなさんに見てもらってから)



日本とデンマークの交通機関の違い



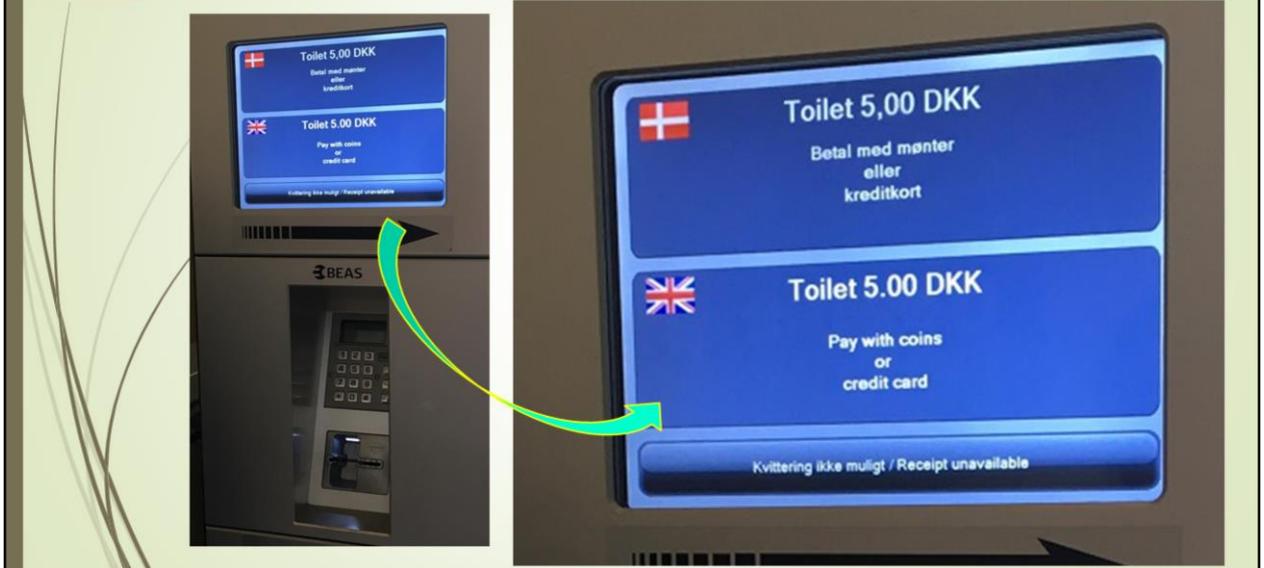
次に、「駅」についてです。

コペンハーゲン中央駅は広く、中には、おなじみのコンビニやハンバーガーショップなどもありました。

(少し、間をおいて...みなさんに見てもらってから)



日本とデンマークの交通機関の違い



中央駅はトイレが有料で、男女関係無く1人5クローネ(約85円)を払って使います。

●
その他の駅では、あまり有料トイレは見かけませんでした。

(少し、間をおいて...みなさんに見てもらってから)

●

日本とデンマークの交通機関の違い



次に、バスについてです。都市部のバスと地方のバスに分けて発表します。

まず、都市部のバスは登別のバスと変わりないように思いました。それに、登別に比べると、バスの本数も多いから、とても便利です。しかも、バス停には電光掲示板があり、次のバスがあと何分で来るかがわかります。

地方のバスは、本数は少ないですが、バスの大きさは、都会の小さ目のバスと似たような感じでした。



日本とデンマークの交通機関の違い



次に、自転車についてです。

都市部では、●

このように、自転車専用レーンが幅広く取られており、自転車は、日本に比べて、とても速く走っていました。

(少し、間をおいて...みなさんに見てもらってから)

●

それに、変わった自転車もたくさん走っており、このような、子供を前に乗せる形のものも見かけました。

ところが、リングでは、自転車はほとんど走っておらず、僕がホームステイ中に見かけたのは、マウンテンバイク1台きりでした。

●

日本とデンマークの交通機関の違い



また、デンマークの青信号の時間は、とても短かったです。都市部では、青信号の時間は10～15秒程度で、デンマークの一番の課題はそこだと思いました。ゆっくり安心して渡りきるには、もう少し長いといいな、と思います。



「デンマークの交通機関」は、



日本と同じところも
違うところも、いろいろ
ありましたが、自転車に
とても優しい道路でした。

他の国の交通機関にも興
味がわきました。

僕が見てきた「デンマークの交通機関」は、日本と同じところも違うところも、いろいろありました。ただ、デンマークは自転車王国と言われるだけあって、自転車にとっても優しい道路だったと思います。日本でも自転車に乗る人が増えているようですが、今のままの道路では危ないことも多いです。デンマークのいいところをもっと取り入れたらいいのではないのでしょうか。

そして、僕はこの経験を通して、他の国の交通機関についてもいろいろ知りたいと思いました。

(～～ひと呼吸～～)

これで、僕の発表を終わります。
次は、ほんだ ゆみか さん の発表です。



デンマークの公共施設について



登別市立鷺別中学校2年 本田 優美香

登別市立鷺別中学校2年、本田優美香です。

わたしは、「デンマークの公共施設」をテーマに、あちこちの施設を見てきました。
日本では、あまり見ないものも、いろいろ見つけたので、紹介します。



デンマークの公共施設について



まず最初に、デンマークの市役所を紹介します。私たちが訪問したのは、ファボー・ミッドフュンの市役所です。

この市役所では、150人以上の人が働いています。市長は4年に1度、25人の議員さんたちの話し合いで決めるそうです。

建物は1970年代に建てられ、2005年位から少しずつ増築して、このようなきれいな外観となっています。



デンマークの公共施設について



市役所では、学校のサポートなどもしているそうです。
また、オリジナルのアートや音楽を作って披露しているところが、日本と違うと実感した点です。



デンマークの公共施設について



次にご紹介するのは、リンゲの図書館です。

ここを訪問して、一番驚いたのは、大きなおもちゃや衣装がたくさん置いてあったことと、壁や扉に描かれた絵でした。

日本の図書館に、おもちゃがこんなに堂々とおいてあるところは、あまり無いでしょうし、扉の絵も迫力があり、とても印象強く、心に残りました。

また、パソコンがたくさん置いてあるのを見て、私の家の近所の図書館にも、増やしてくれたらいいなと思いました。



デンマークの公共施設について



最後は、デンマークの施設で見たトイレをいろいろご紹介します。

まずは、空港のトイレです。この写真をご覧ください。

日本と違うところは、2つあります。

1つは、トイレ紙が、修正テープのような造りになっていて、ケースのギザギザでちぎって使います。

もう1つは、

日本では、それぞれの個室にゴミ箱が置かれていますが、

●

デンマークでは、このように袋が下がっていたことです。

(少し間をおいて)

●

デンマークの公共施設について



次は、ショッピングセンターのトイレです。

日本と違うところは、トイレットペーパーのホルダーと、流すボタンです。

ペーパーホルダーは中に大きなトイレットペーパーが入っていて、中央から出ている紙を引っばってちぎる方式でした。

流す方法は、日本ではレバーやセンサーが多いのに比べ、デンマークでは、水のタンクの上や、壁に付いていることが多かったです。



デンマークの公共施設について



これは、市役所のトイレです。

トイレトーパーは、日本と同じような形ですが、流すボタンがタンクの上に付いています。



(少し、間をおいて...みなさんに見てもらってから)



デンマークの公共施設について



また、リンゲフリー校や森の幼稚園、ホストと行った海にあったトイレでは、



このように、予備のペーパーがたくさんストックされたケースがありました。

トイレペーパーのホルダーは、日本と同じような形ですが、流すボタンが、こちらにもタンクの上に付いています。



(少し、間をおいて...みなさんに見てもらってから)



デンマークの公共施設について



これは、コペンハーゲンで行った、オリンピック関連施設のトイレです。水のタンクがなくて、流すボタンが壁に付いていました。



こういう違いも、初めは、ちょっと戸惑うのではないのでしょうか。

(少し、間をおいて...みなさんに見てもらってから)



デンマークの公共施設について



これは、リンゲフリー校にあったおもちゃの家のトイレです。



おもちゃでも、やっぱり、流すレバーが日本とは少し違います。

(少し、間をおいて...みなさんに見てもらってから)



「デンマークの公共施設」は、



日本よりデザインが凝っているところが良かったです。

でも、不便なところもありました。

良いところを取り入れて活かしていけたらいいと思います。

以上のように、日本とデンマークの公共施設の違いは、実際に生活してみると、いろいろ見つけられました。私が見てきた公共施設は、日本よりデザインが凝っているものが多く、うらやましいなと思うところもたくさんありました。でも、トイレでは、ペーパーが遠かったり、ちぎりにくかったり、良いことばかりでは、ありませんでした。

デンマークのアイデアなど、良い部分をうまく取り入れて活かしていけたらいいと思いました。

(～～ひと呼吸～～)

これで、私の発表を終わります。



ご清聴ありがとうございました！



そして、私たち、派遣生徒6人の発表を、これで、すべて終わります。

ご清聴ありがとうございました。

帰国報告会資料 (引率者)

A photograph of a residential street in Denmark. The scene shows a row of houses with red-tiled roofs and white walls. A large green hedge runs along the left side of the road. The sky is bright blue with a few white clouds. The text is overlaid in the center of the image.

平成30年度
登別市デンマーク友好都市中学生派遣交流団

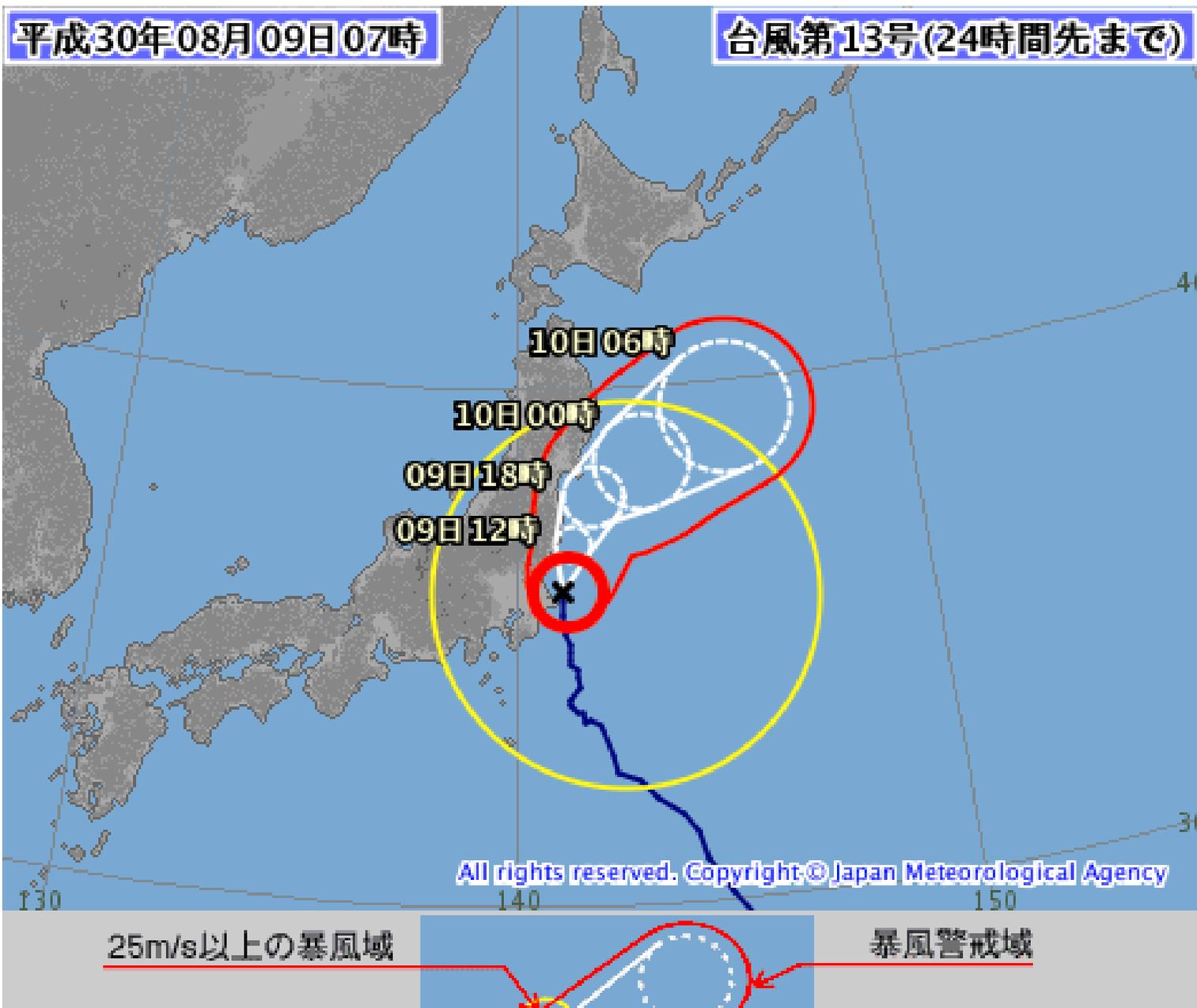
新千歳空港

8月9日



平成30年08月09日07時

台風第13号(24時間先まで)



非表示

台風第13号 (サンサン)

平成30年08月09日07時45分 発表

中心位置	北緯 36度10分(36.2度) 東経 141度00分(141.0度)
進行方向、速さ	北 15km/h(9kt)
中心気圧	975hPa
中心付近の最大風速	35m/s(65kt)
最大瞬間風速	50m/s(95kt)
25m/s以上の暴風域	東側 90km(50NM) 西側 60km(30NM)
15m/s以上の強風域	東側 560km(300NM) 西側 280km(150NM)

<09日12時の予報>

強さ	強い
予報円の中心	北緯 36度55分(36.9度) 東経 141度20分(141.3度)
進行方向、速さ	北 20km/h(10kt)
中心気圧	975hPa
中心付近の最大風速	35m/s(65kt)
最大瞬間風速	50m/s(95kt)
予報円の半径	40km(20NM)
暴風警戒域	東側 130km(70NM) 西側 90km(50NM)





新千歲空港～
香港國際空港

8月9日





香港交際空港
～
コペンハーゲン
空港
8月10日

コペンハーゲン
観光

8月10日



コペンハーゲン
観光

8月10日



コペンハーゲン
観光

8月10日



コペンハーゲン
観光

8月10日



コペンハーゲン
観光

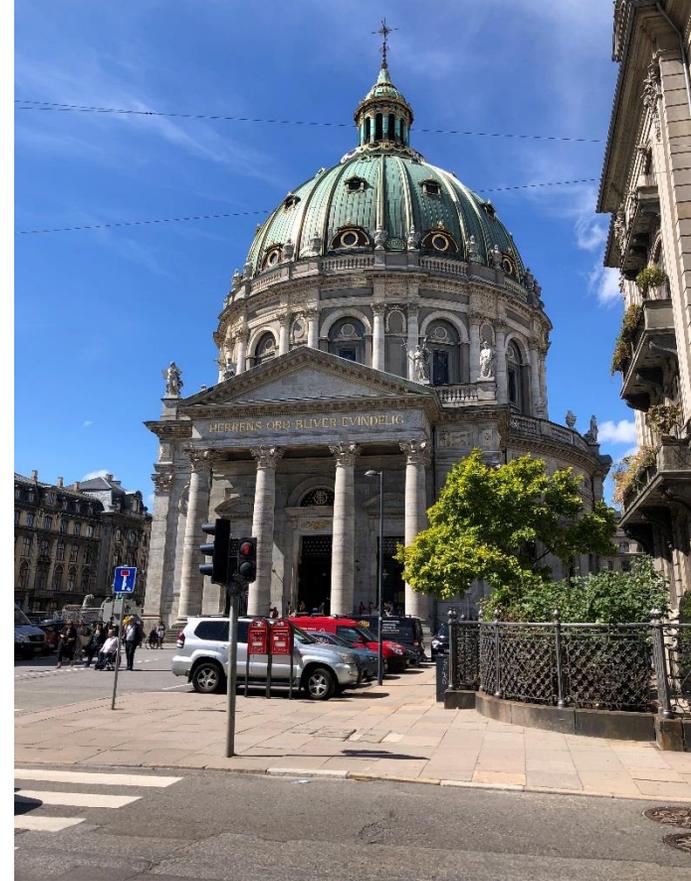
8月10日



コペンハーゲン
観光

8月10日





オーデンセ
～
リンゲ

8月11日

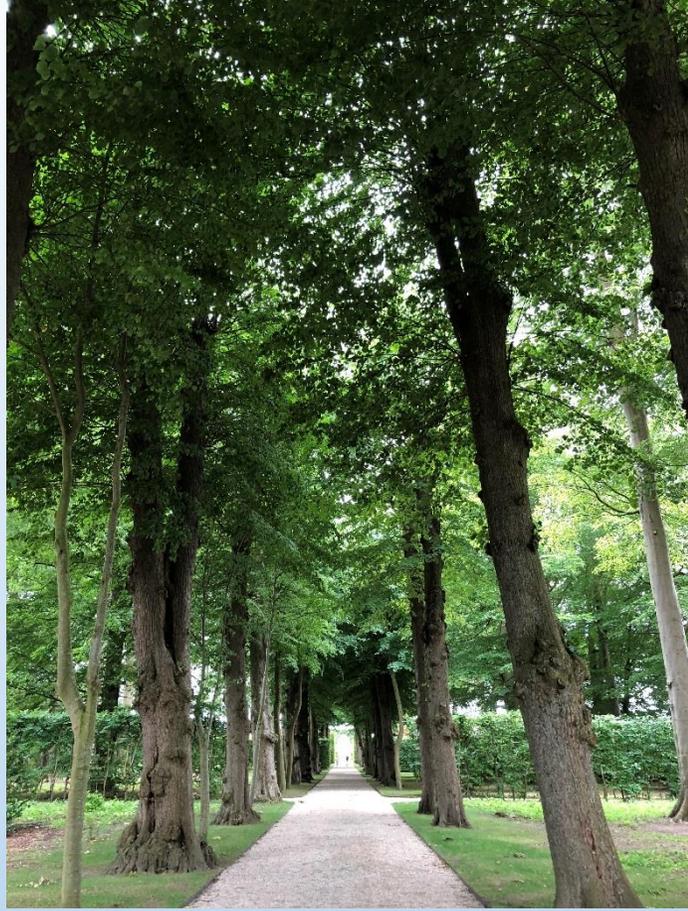




イーエスコウ城

8月12日

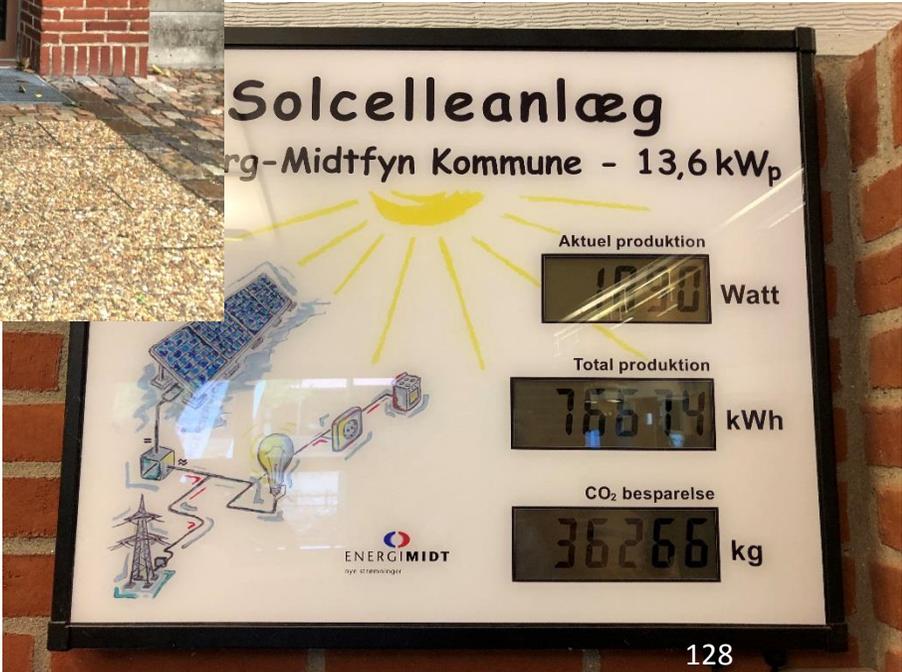




ファボーミッドフュン
市役所表敬訪問

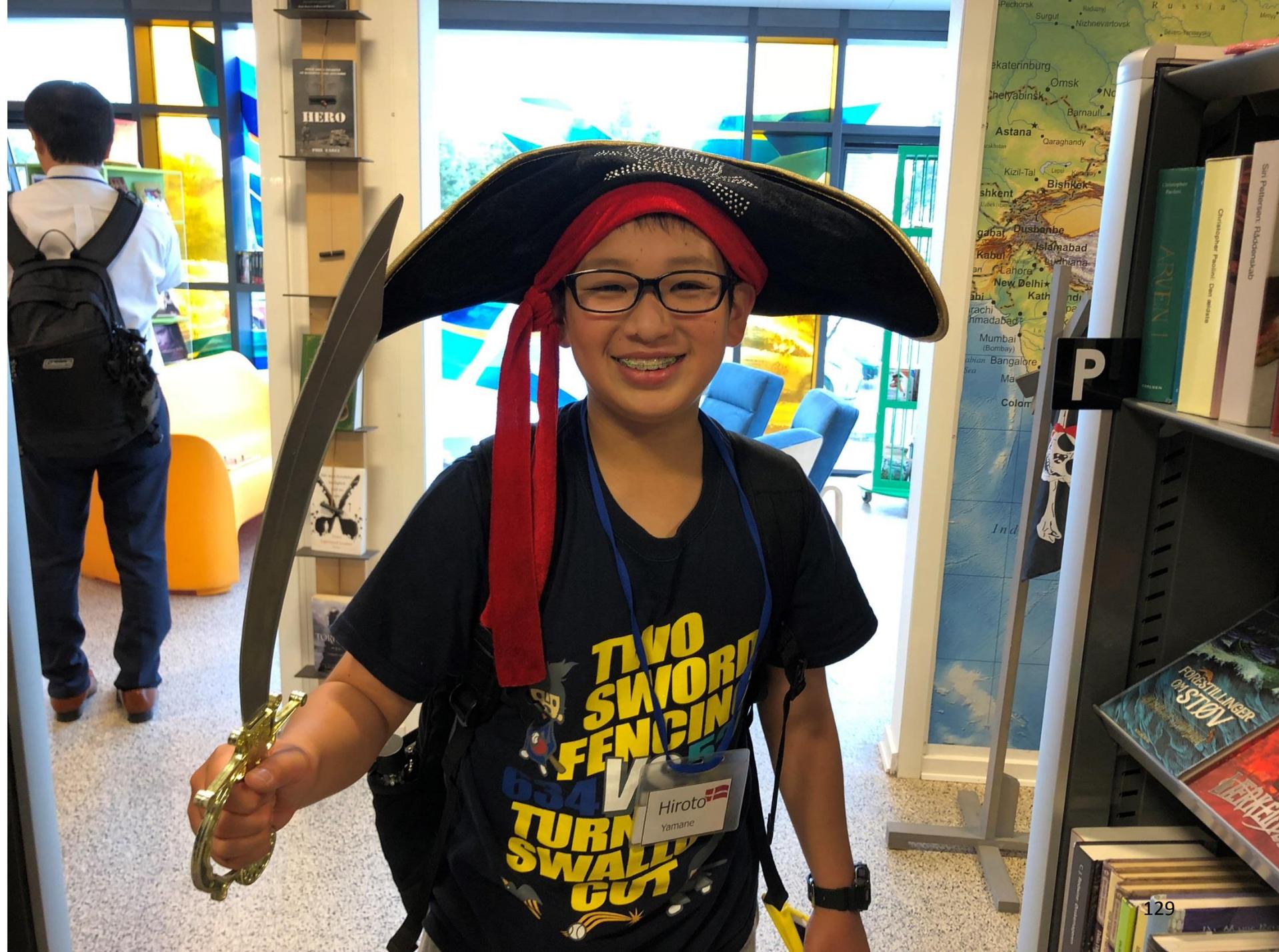
8月13日

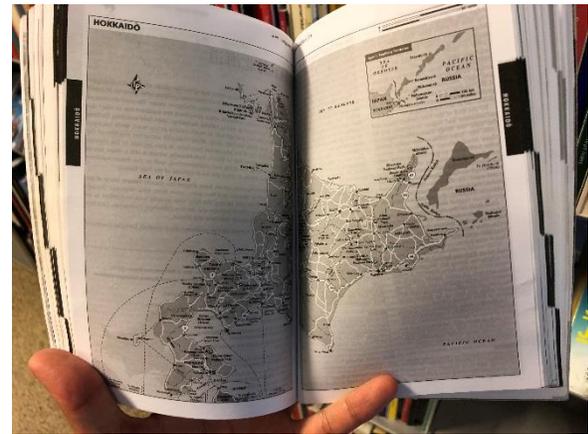




図書館見学

8月13日

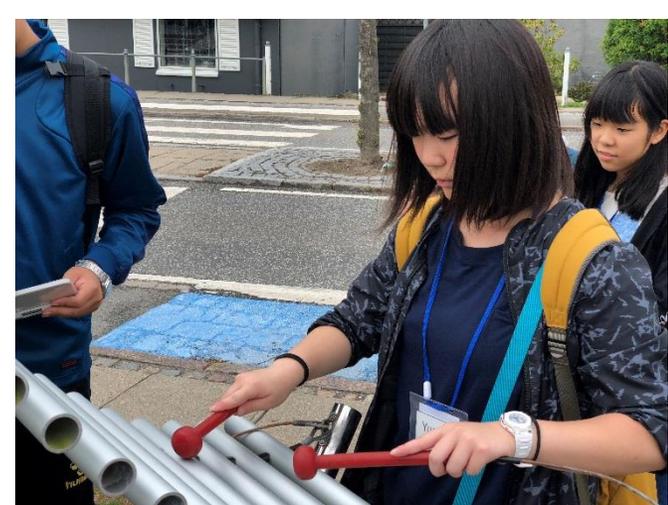






森の幼稚園見学

8月13日



レゴランド

8月14日







リンゲフリー校
授業見学

8月15日





14. Do you have any duties at home?

15. Do you think that it is good that children have duties at home?

16. When do you go to bed at night during the schooldays?

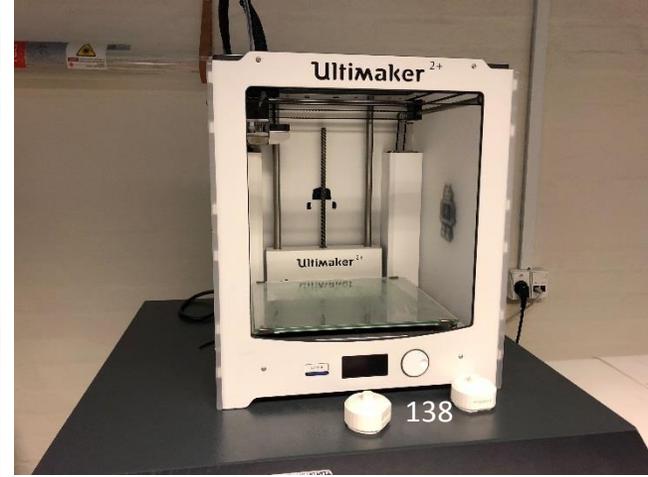
17. Try to describe yourself in a few words

18. What is your favourite music?

19. Do you play an instrument?

20. What would you like to work as, when you grow up?





リンゲフリー校
お別れ会

8月15日







別れの朝

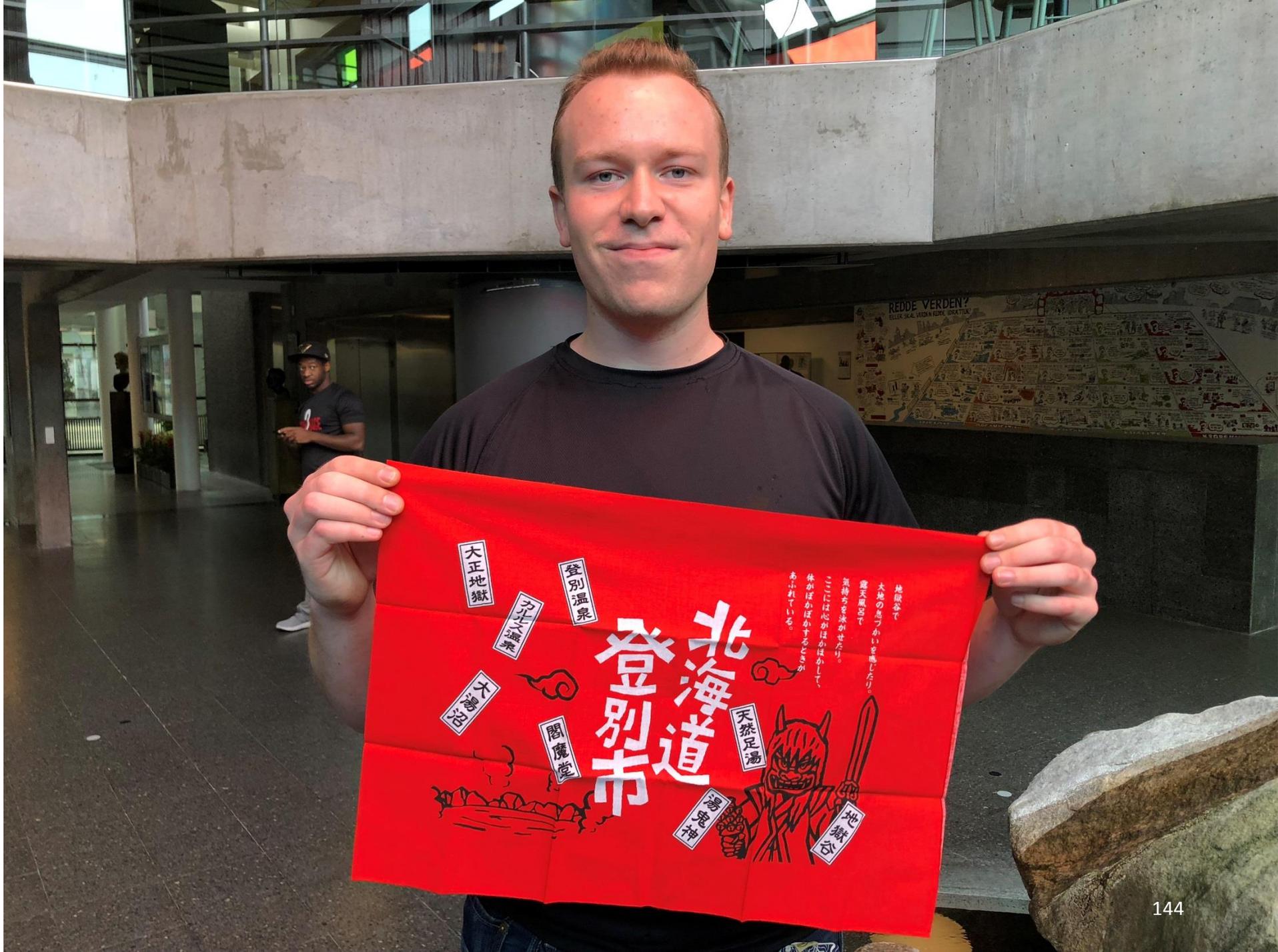
8月16日

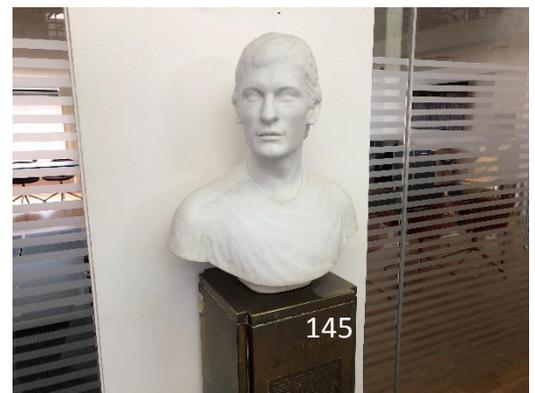




オリンピック施設
見学

8月16日





Last Day

8月16日







帰着

8月17, 18日

友好都市協定書

デンマーク王国リングゲ市及びウイスリングゲ市と日本国北海道登別市は、1997年に「友好の絆」を交わして以来、リングゲ・ウイスリングゲ・登別友好協会と登別デンマーク協会との両協会の活動を積極的に支援し、双方の市民の友好と相互理解を深め、友好交流を積み重ねてまいりました。

これらの交流は、両市民の文化・教育の面においても拡がりを持たせるものであります。

この度、リングゲ市、ウイスリングゲ市が近隣のまちと合併し、ファボー・ミッドフン市として誕生したことを記念する年になお一層両市の絆を強め、ファボー・ミッドフン登別友好協会（旧リングゲ・ウイスリングゲ・登別友好協会）と登別デンマーク協会の積極的な支援を継続するとともに、両市の相互理解と信頼のもとに市民交流、文化交流の推進を目指し、ここに友好都市協定を締結します。

平成19年(2007年)6月10日

The Establishment of Friendship Agreement

Since the signing on the Bond of Friendship between the municipalities of Ringe/Ryslinge and Noboribetsu City in 1997, our three cities have been positively supporting the activities of both the Ringe/Ryslinge-Noboribetsu Friendship Association and the Noboribetsu Denmark Association to deepen mutual understanding and build up friendship among our peoples, and the fruit of the activities has extended to cultural and educational fields.

According to the formation of the new Municipality of Faaborg-Midtfyn, both our cities will strengthen the ties of friendship even more, and continuously maintain the activities of both the Faaborg-Midtfyn-Noboribetsu Friendship Association and the Noboribetsu Denmark Association. Our goal is promote friendship and cultural exchanges based upon mutual appreciation and reliance.

In accordance with the above mentioned guiding principles, The Municipality of Faaborg-Midtfyn and The City of Noboribetsu will subsequently outline a more elaborate description of the fields of co-operation and how the goals of the agreement is best achieved.

We hereby give our signatures on the Establishment of Friendship Association.

June 10th, 2007



ファボー・ミッドフン市長
Mayor of Faaborg-Midtfyn
ボー・アナスン
Bo Andersen



登別市長
Mayor of Noboribetsu
上野 晃
Akira Ueno